スズキ車をお買いあげいただきありがとうございます。

車は取扱いを誤ると事故や故障の原因となります。正しい取扱いをご理解いただくため運転する前に、必ず取扱説明書をお読みください。そして安全で快適なバイクライフをお楽しみください。
またメンテナンスノートもぜひお読みください。

- この取扱説明書には、お車の正しい取扱いかた、安全な運転のしかた、簡単な点検、整備の方法などについて説明してあります。
- **「必読！安全運転のために」**および次のシンボルマークで示したところは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠警 告	取扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害を生じる可能性がある危害の程度を示しています。
⚠注 意	取扱いを誤った場合、傷害を負う可能性がある危害の程度を示しています。
注 記	取扱いを誤った場合、物的損害の発生する危害の程度を示しています。
アドバイス	お車のために守っていただきたいこと、知っておくと便利なことを示しています。

お車受け取りの際は、お買いあげいただいたスズキ販売店より取扱説明書、メンテナンスノートを受け取り、下記の説明を受けてください。

◇ お車の正しい取扱い方法
◇ 日常点検、定期点検
◇ 保証内容と保証期間
◇ 保証書の発行 《保証書登録票の記入・捺印》

- お車を譲られるときは、次に所有される方のためにこの取扱説明書とメンテナンスノートをお渡しください。
- 仕様の変更などにより、この取扱説明書の内容とお車が一致しない場合があります。ご了承ください。

☆ この車は、平成28年排出ガス規制適合車です。

もくじ

必読！安全運転のために	運転の前に.....2	運転中は.....5	車の整備など.....8
取扱いの方法	各部の名称.....10 メータの見かた.....13 スイッチの使いかた.....22 ハンドルロック.....28	シート.....28 ヘルメットホルダ.....30 書類収納位置、 サービス工具.....30	ガソリンの給油.....31 チェンジペダル.....32 リヤショックアブソーバ.....33
正しい運転操作	エンジンのかけかた.....35	走りかた.....37	ブレーキの使いかた.....39
お車の点検	日常点検、定期点検.....41	日常点検項目.....42	
簡単な整備	簡単な整備.....43 スロットルケーブル.....43 ブレーキ.....44 クラッチ.....48	エンジンオイル.....49 エアクリーナ.....51 ドライブチェーン.....53 ヒューズ.....55	フレームカバー.....56 バッテリ.....57 タイヤ.....59
お車の手入れ	洗車.....62 プラスチック製部品.....63 つや消し塗装.....63	アルミホイール.....63 エキゾーストパイプ.....64 スロットルケーブルブーツ.....64	保管のしかた.....64 環境を保護するために.....65
サービスデータ	主要諸元.....68	サービスデータ.....69	車台番号.....70

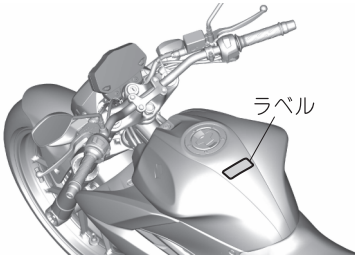
必読！安全運転のために

運転の前に

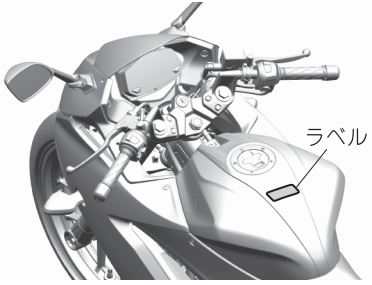
この章にあげた、日常走行する上での基本的な注意事項を守り、安全運転を心がけてください。

車の購入当初は、誰でも細心の注意をはらって運転しますが、なれるに従い注意を怠ってしまいます。事故防止のため、いつも細心の注意をはらって運転しましょう。

重要な事項を書いたラベルが車に貼られています。これらの注意をいつもお守りください。



(GIXXER 250)

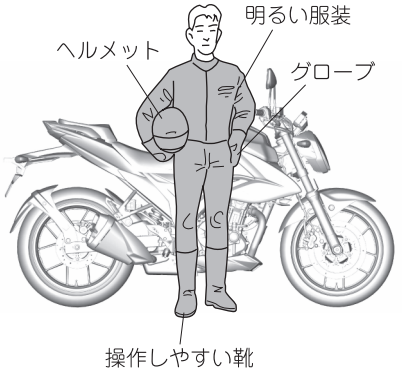


(GIXXER SF 250)

◇転倒などの際のけがを最小とするため、ヘルメットや手袋などの保護具を正しく着用してください。
◇取扱説明書をよくお読みください。

■ 安全な運転は正しい服装から

- ヘルメットを必ず着用してください。PSC、SGまたはJISマークのある二輪車用ヘルメットを必ずかぶり、あごひもをしっかり締めましょう。ヘルメットは頭にしっくり合って圧迫感のないものをお選びください。
- 保護具や保護性の高い服装を着用してください。
- ヘルメットシールドまたはゴーグルを使用してください。
- グローブを着用してください。グローブは摩擦に強い皮製が適しています。
- 服装は明るく目立ち、体の露出の少ない長袖、長ズボンを着用してください。万一のとき身体への衝撃を軽減します。
- 運転を阻害するような服装はやめましょう。そで口の広い服や、すそ広のズボンなどは運転操作の邪魔になります。
- 運転操作のしやすいくるぶしまで覆う靴をはいてください。



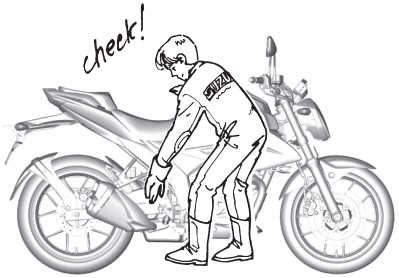
⚠警 告

- **ヘルメットを正しくかぶってください。正しくかぶらないと事故の際、死亡または重大な傷害を負う可能性が高くなります。**
- **運転者と同乗者は、必ずヘルメット、保護具および保護性の高い服を着用してください。**

うしろの席に乗る人は、背丈の長いジャケットやコートを着用しないでください。テールランプやターンシグナルランプが覆い隠されて、後続の車に見落とされるおそれがあります。
やむを得ず着用する場合は、ジャケットやコートのすそをお尻の下に敷くなどして、テールランプやターンシグナルランプが覆い隠されないようにしてください。

■ 点検整備をしましょう

事故や故障を未然に防ぐため、日常点検と定期点検を必ず実施してください。
いつもと違う音やにおいがしたり、液漏れした場合などは、スズキ販売店で点検を受けてください。

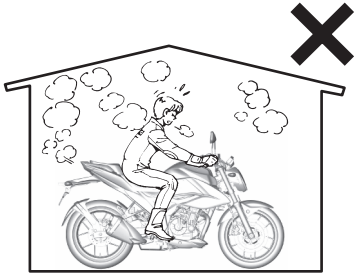


運転の前に

■ エンジンをかけるときは

風通しのよい場所でエンジンをかけてください。
下記のような使いかたは、エンジンの温度上昇をまねき、エンジンや車体の損傷の原因になります。

- 長時間のアイドリング
- 不必要な空ふかし
- スロットルグリップを開けたまま保持し続ける操作

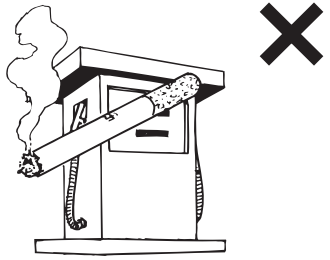


⚠警 告

排気ガスには一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。閉めきったガレージの中など、風通しの悪い場所では、エンジンをかけないでください。排気ガスにより、ガス中毒を起こすおそれがあります。

■ 給油するときは

ガソリンを給油するときは、エンジンをとめて火気を近づけないでください。

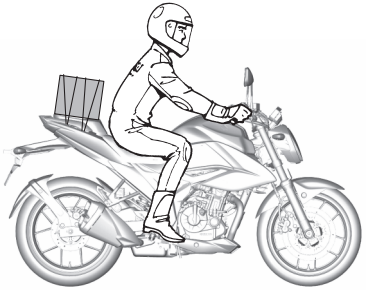


■ 乗車定員は2名

二人乗りでは通行できない道路区分もあります。また、二人乗りは年令や経験年数の制限もあります。二人乗りに関する条件や交通規制をしっかり守り、マナーのよい運転を心がけましょう。

■ 荷物

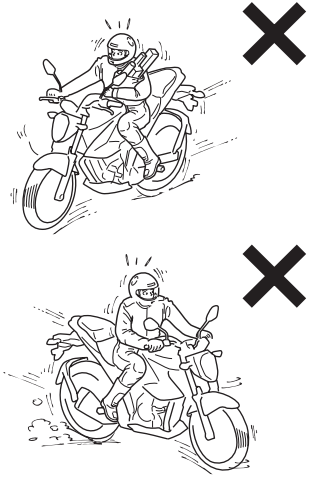
- 荷物を積むと、積まないときにくらべ操縦性・安定性が変わります。
- 荷物はゴムバンドなどでしっかり固定し、積み過ぎないようにしてください。



運転中は

■ 乗りかた

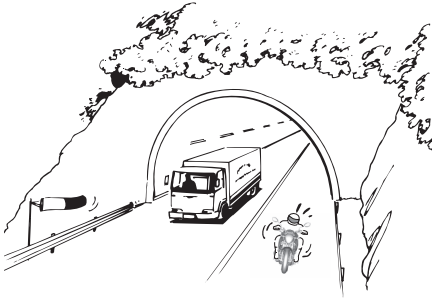
- 運転中は両手でハンドルを握り、足をフットレストに置いてください。同乗者には両手で身体をしっかり固定させ、足は後席用フットレストに乗せさせてください。
- 急激なハンドル操作や片手運転は絶対にしないでください。横すべりや転倒の原因となります。



運転中は

■ 風が強い日は

横風が強いとき、トンネルの出口や橋の上、あるいは大型トラックに追い越されたり追い越したりするときは、横風を受けて車が流されることがあります。
スピードを抑え、ハンドルをしっかり握って運転しましょう。



■ 雨の日、雪の日は

- 路面がすべりやすいので急加速、急減速、急ブレーキは避けてください。
- ふだんよりスピードをおとして、早めにブレーキをかけてください。

■ 冠水した場合は走行しない

万一、冠水した場所を走行したときは、ブレーキの効きを確かめながら安全な場所に停車し、スズキ販売店にご連絡ください。また、次の項目などについて点検を受けてください。

- ブレーキの効き具合
- コネクタ、配線への浸水
- ベアリングなどの潤滑不良
- オイル量および質の変化（オイルが白濁している場合は、水が混入していますので、オイル交換が必要です。）

注 記

冠水した場所や深い水たまりを走行しないでください。エンスト、電装品の故障、エンジンの破損などの原因となります。

■ 駐車するとき

車から離れるときは、盗難抑止のため必ずハンドルをロックし、キーは抜いてお持ちください。

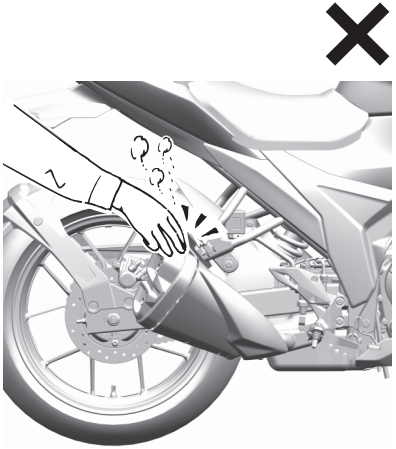
☞P.28の「ハンドルロック」参照

- 交通の邪魔にならない場所に駐車してください。
- 違法駐車はしないでください。
- 車は平坦でしっかりした地面の場所に、ハンドルを左にきって駐車してください。ハンドルを右にきった状態での駐車は避けてください。
- やむをえず傾斜地、砂利の上、でこぼこな所、やわらかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、車が転倒したり、動いたりしないように十分注意してください。

⚠注 意

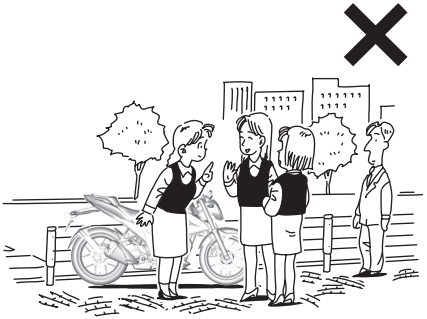
- **エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。**
- **マフラに内蔵されている触媒装置は高温になります。車の周りに枯れ草、木材、紙、油脂類などの燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。火災の原因となるおそれがあります。**

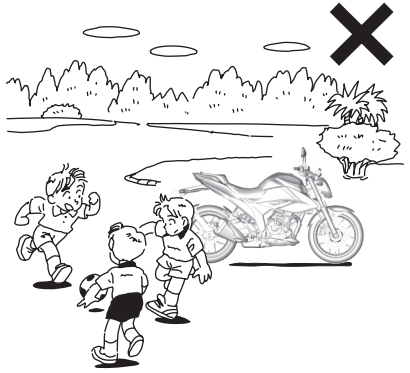
- エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンなどに触れないでください。



運転中は

● 他の人がマフラ、エンジンなどに触れることのない場所に駐車してください。





■ 車を押して移動するとき

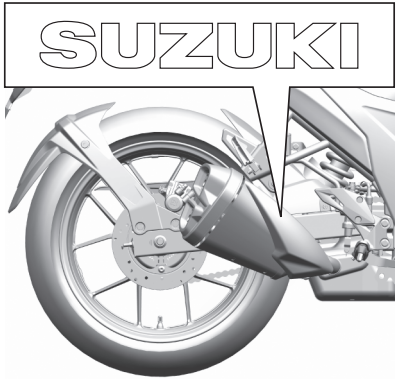
車を押して移動するときは、メインスイッチを**OFF**にしてください。

車の整備など

■ 不正改造はやめましょう

車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪くしたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることになります。このような改造は法律に触れるばかりでなく、他の人の迷惑となります。
車の改造は保証の適用を除外されますのでご了承ください。

● マフラには、スズキ純正部品を表す**“SUZUKI”**マークが刻印されています。



- 自己流のエンジン調整、部品の取り外しは行わないでください。エンジン調整はスズキ販売店にご相談ください。
- あなたのお車に適したスズキ純正部品および指定・推奨油脂類をお使いいただくことをおすすめします。純正部品は厳しく検査し、スズキ車に適するように作られています。純正部品には下記の表示があります。

- この車は、排出ガス規制適合車です。
  マフラには排気ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。
  マフラを変更すると、排出ガス規制に適合しなくなるおそれがありますので、マフラを交換する場合はスズキ販売店にご相談ください。

■ LED(発光ダイオード)

LEDを使用したランプは非分解式のため、LED のみの交換はできません。もし、LEDが１つでも点灯しなくなった場合は、スズキ販売店にご相談ください。

■ 触媒装置について

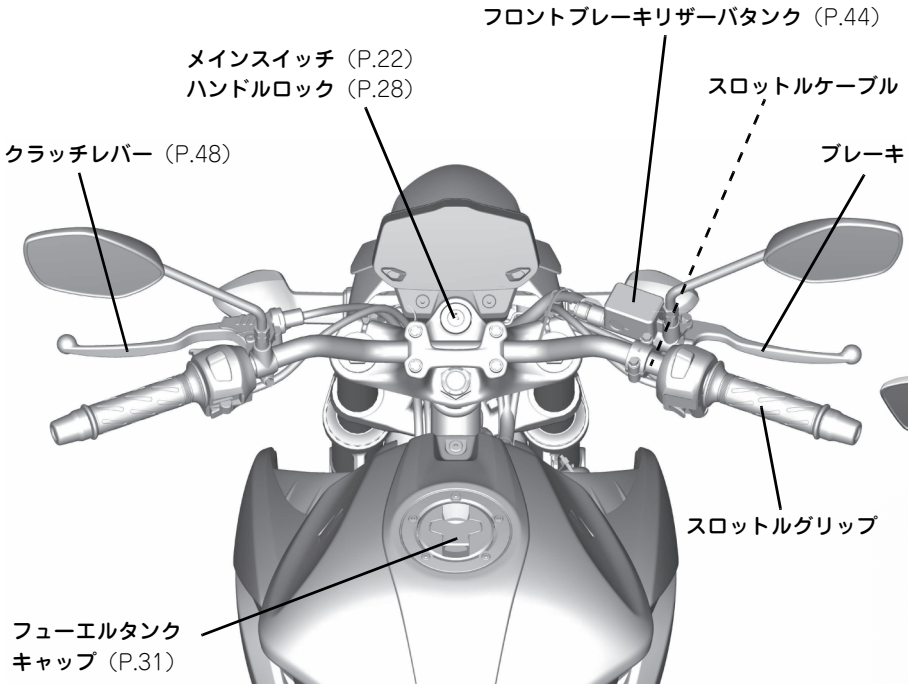
この車のマフラには、触媒装置が内蔵されています。この触媒装置の働きによって排出ガスの有害物質の排出量を低減します。特別な点検および整備は必要ありませんが、不適切な運転や誤った取扱いをすると触媒装置が異常な高温になり、触媒装置および他の関連部品が損傷するおそれがありますのでご注意ください。

注 記

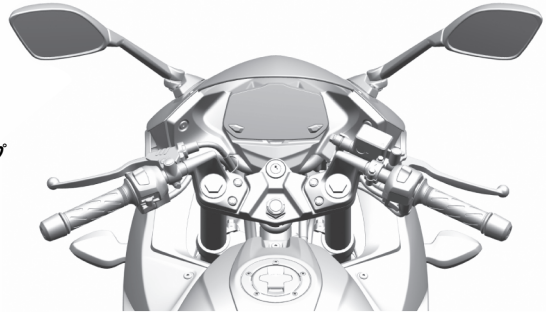
触媒装置および他の関連部品の損傷を避けるために、下記の注意事項をお守りください。

- **必ず無鉛ガソリンを使用してください。**
- **エンジンの性能の低下や不調を感じたときは、スズキ販売店で点検を受けてください。**
- **走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチを操作して、エンジンを停止しないでください。**
- **押しがけや下り坂を利用してのエンジンの始動を行わないでください。**
- **診断テスト中などで、スパークプラグワイヤを取り外した状態でエンジンを始動しないでください。**
- **不要な空ふかしや長時間のアイドリングは行わないでください。**
- **フューエルタンク内のガソリンを使い切ること（ガス欠）のないようにしてください。**

各部の名称

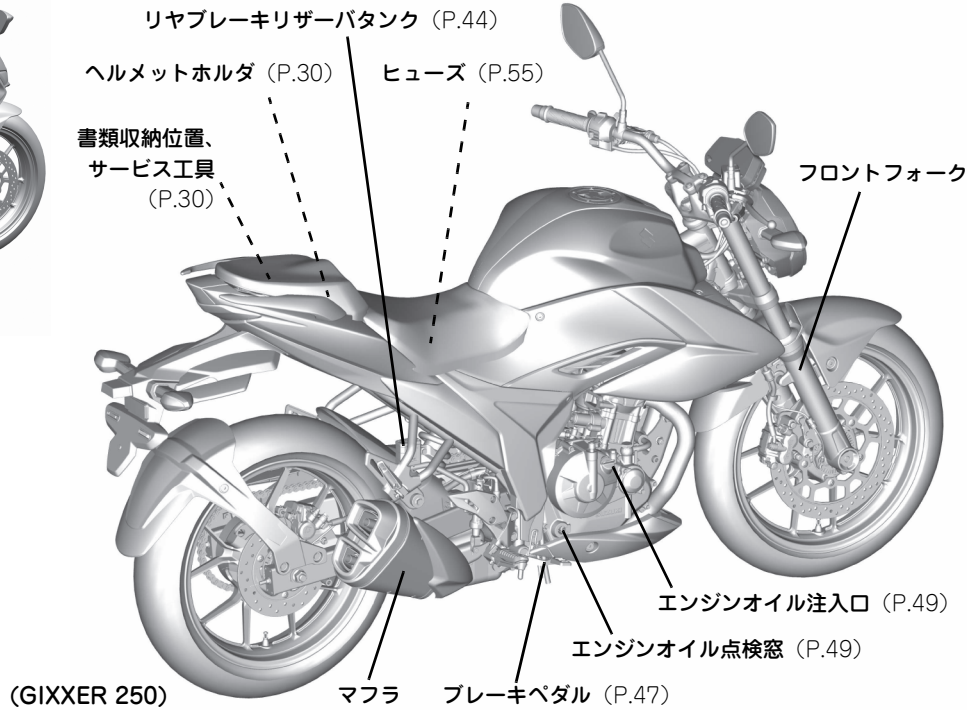


（GIXXER 250）



（GIXXER SF 250）

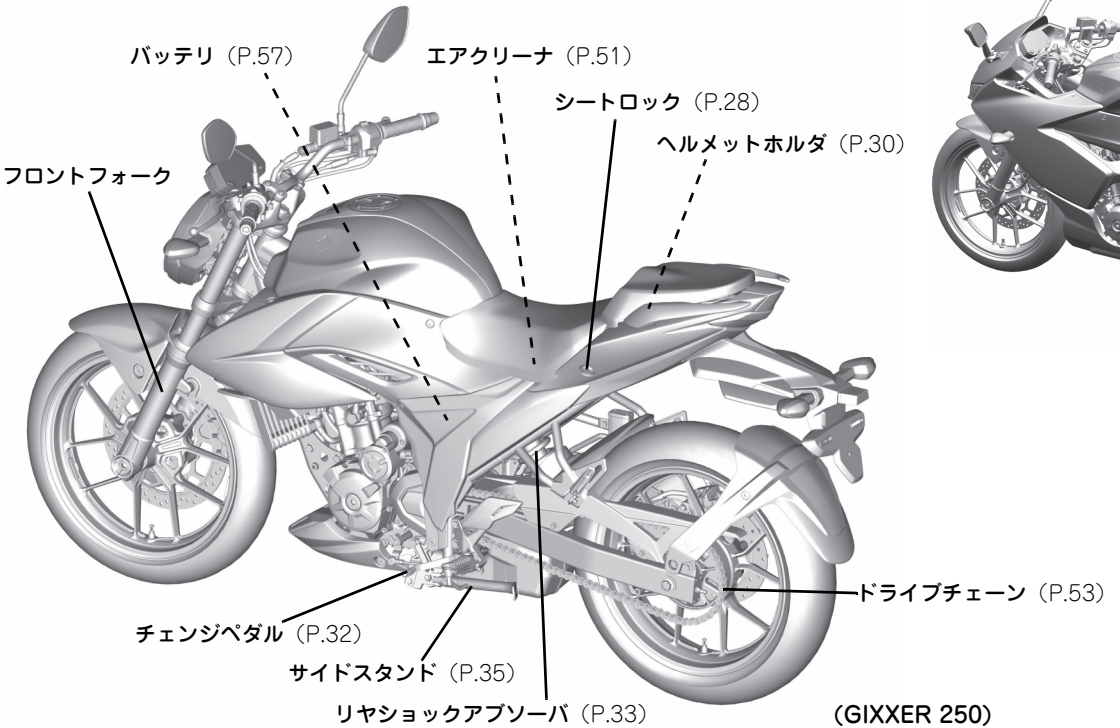
(GIXXER SF 250)



(GIXXER 250)

- - - 部は見えない部分を示します。

各部の名称

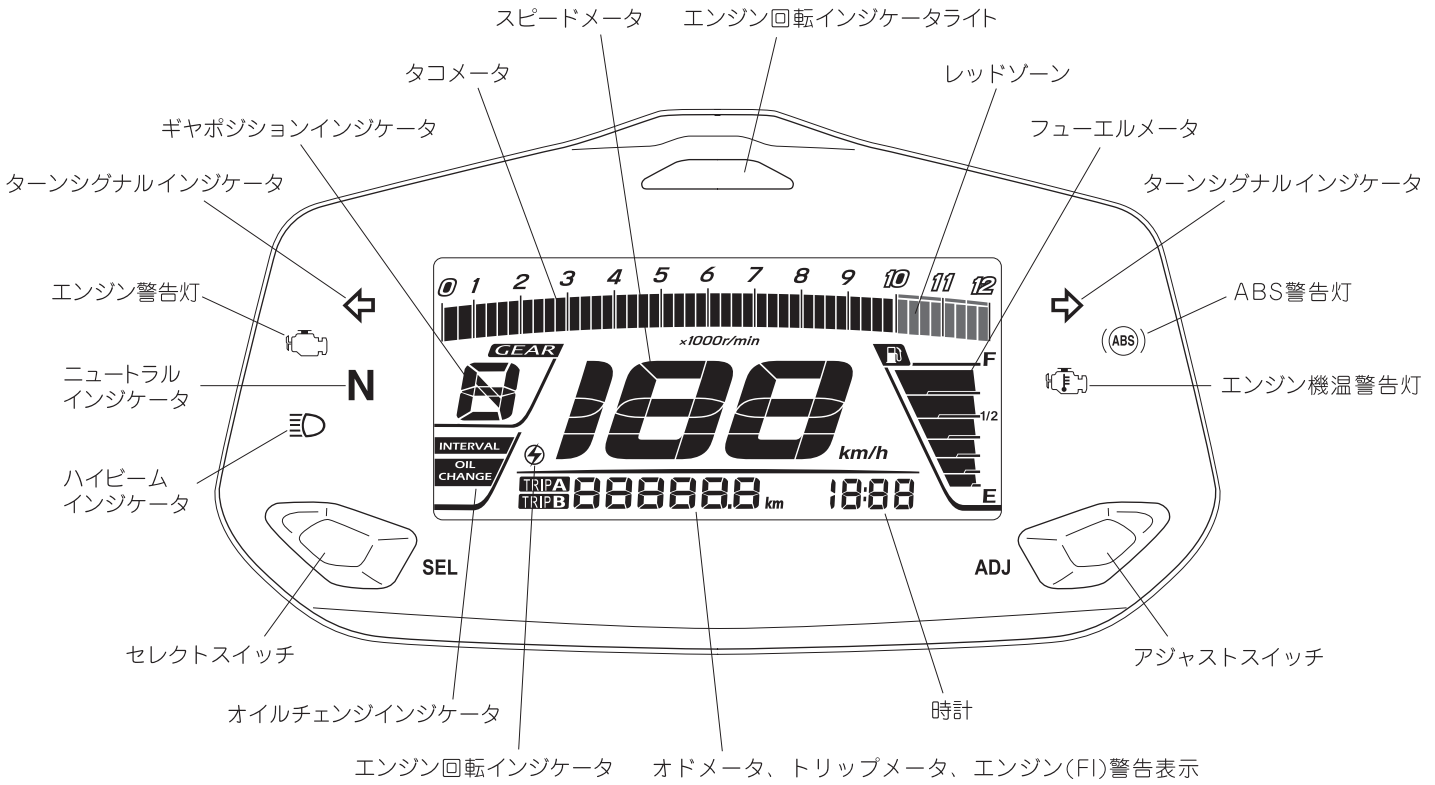


（GIXXER 250）

（GIXXER SF 250）

- - - 部は見えない部分を示します。

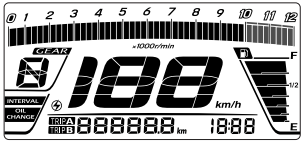
メータの見かた


スピードメータ
エンジン回転インジケータライト
タコメータ
レッドゾーン
ギヤポジションインジケータ
フューエルメータ
ターンシグナルインジケータ
ターンシグナルインジケータ
エンジン警告灯
ABS警告灯
ニュートラル
インジケータ
エンジン機温警告灯
ハイビーム
インジケータ
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
×1000r/min
GEAR
N
100
km/h
F
1/2
E
INTERVAL
OIL
CHANGE
TRIP A
TRIP B
888888 km
18:88
SEL
ADJ
セレクトスイッチ
アジャストスイッチ
オイルチェンジインジケータ
時計
エンジン回転インジケータ
オドメータ、トリップメータ、エンジン(FI)警告表示

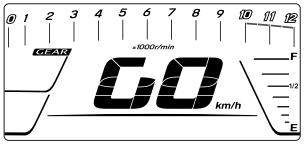
メータの見かた

メインスイッチを**ON**にすると
- 全液晶ディスプレイセグメント表示（チェックパターン表示）を行います。
- エンジン警告灯、エンジン機温警告灯、エンジン回転インジケータライトが約3秒間点灯します。
- ABS警告灯が点灯します。

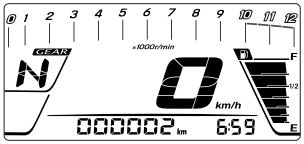
以下のようにチェックパターン表示を行います。



＜全液晶表示＞



＜GO表示＞



＜標準表示＞

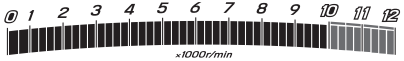
⚠警 告

走行中にスイッチ操作を行なうと危険です。必ず停止中に操作してください。

■ スピードメータ

車の走行速度をkm/hの単位で示します。

■ タコメータ



エンジンの回転速度を示します。

アドバイス

- **エンジンの回転速度がレッドゾーンに入らないよう注意して走行してください。**
- **空ふかしや、1速/2速での急加速はレッドゾーンに入りやすいので、特に注意してください。**
- **レッドゾーンに入ってしまった場合は、速やかにスロットルをゆるめ、エンジン回転速度を下げてください。**

＜レッドゾーン＞

レッドゾーンとは、エンジンの許容回転速度を超えた回転域を示します。レッドゾーン内で使用すると、エンジンが円滑に回転しなくなり、エンジン寿命に悪影響を与えます。

■ エンジン回転インジケータライト

エンジン回転速度が設定値に達すると、エンジン回転インジケータライトが点灯または点滅し、シフトアップのタイミングをお知らせします。
エンジン回転インジケータライトの点灯設定、点灯タイミング（エンジン回転数）設定は、エンジン回転インジケータライトの設定モードで変更することができます。メータ表示を設定モードに切り替えるには、メインスイッチを**ON**にし、表示が切り替わるまでセレクトスイッチを2秒以上押し続けます。設定モードに切り替わると、オドメータ/トリップメータの表示が消えます。

点灯設定（点灯／点滅／消灯）

アジャストスイッチを押してエンジン回転インジケータライトの点灯設定を変更します。点灯設定は、アジャストスイッチを押す毎に、点灯→点滅→消灯→点灯と変化します。エンジン回転インジケータライトが点灯または点滅に設定されている場合は、液晶ディスプレイ内のエンジン回転インジケータ“⚡”が表示されます。セレクトスイッチを押すと、選択が確定します。点灯設定を点灯または点滅に設定した場合、続けて点灯タイミング（エンジン回転数）の設定を行います。

アドバイス

エンジン回転インジケータライトを点灯、点滅させたくない場合は、エンジン回転インジケータライトの点灯設定で消灯に設定してください。

メータの見かた

点灯タイミング（エンジン回転数）設定

点灯設定後、点灯タイミング（エンジン回転数）設定に切り替わります。現在、設定されているエンジン回転数をタコメータのセグメントが示します。
アジャストスイッチを押して、タコメータのセグメントを点灯または点滅を開始させたい回転数に設定します。セグメントは、アジャストスイッチを押すごとに4000r/min ～ 10000r/min の間で500r/min刻みで変化します。セグメントをお好みの回転数に合わせ、セレクトスイッチを押すと設定が記憶され、通常表示に戻ります。

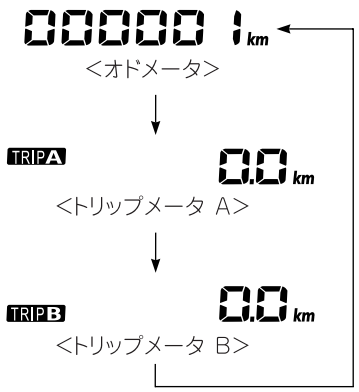
アドバイス

- **エンジン回転インジケータシステムは、メインスイッチをOFFにしても設定を記録しています。**
- **エンジン回転インジケータライトの設定モード中に、メインスイッチをOFFにしたり、車両速度が10km/h以上になると設定モードを解除し、通常のメータ表示に戻ります。この場合、設定途中のものは記憶されていません。**

■ オドメータ、トリップメータ

メインスイッチを**ON**にするとチェックパターンを表示後、オドメータもしくはトリップメータAまたはBを表示します。

- セレクトスイッチを押すと下図のように切り替わります。
- メインスイッチを **OFF** にしても設定は記憶されます。



<オドメータ>

- 走行した総距離をkmの単位で示します。
- オイル交換や定期点検の目安となります。
- オドメータの表示範囲は、0～999999kmです。999999を超えると、オドメータは999999kmを表示し続けます。

<トリップメータ>

- リセット後の走行距離がkmの単位で表示されます。
- **TRIP A, B** 2つのモードがあります。表示範囲は0.0～9999.9kmです。9999.9を超えると0.0に戻ります。
- アジャストスイッチを約2秒間押すとリセットされ、“0.0”を表示します。リセットされるのは表示している**TRIP A**または**B**だけで、表示していない方はそのままです。

■ 時計

時分を表示します。（12時間表示）

＜時計の調整＞

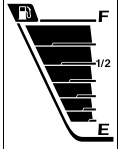
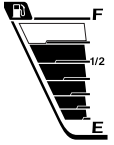
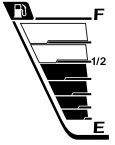
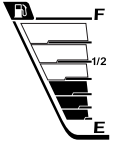
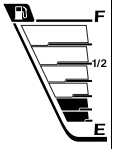
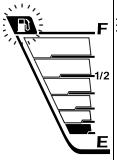
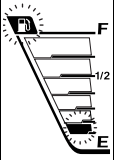
1. メインスイッチを**ON**にします。
2. セレクトスイッチとアジャストスイッチを同時に約2秒間押すと時計表示が点滅します。
3. セレクトスイッチを押し、時表示を調整します。
4. アジャストスイッチを押し、分表示を調整します。
5. セレクトスイッチとアジャストスイッチを同時に約2秒間押すと調整が終了します。

アドバイス

メインスイッチOFFでも、メータには微少電流が流れ、電力を消費しています。長期間（2か月以上）乗らない場合は、バッテリを外してください。詳細はP.65のアドバイスをご覧ください。

■ フューエルメータ

フューエルタンクのガソリン残量の目安を表示します。

表示	マーク点灯					マーク点滅	
							
ガソリン残量	満タン	・・・・・・・・・・・・・・・・・・				約3.0L	約1.2L

点灯　消灯　点滅を表す

注 記

フューエルタンク内のガソリンを使い切る（ガス欠）と触媒装置などの損傷の原因になります。ガソリンの残量に注意してください。

アドバイス

- **マークが点滅したら、すみやかにガソリンを給油してください。**
- **サイドスタンド状態では、フューエルメータはガソリンの量を正しく表示できません。車体を垂直にした状態で確認してください。**

メータの見かた

■ エンジン警告灯

メインスイッチを **ON** にするとランプチェックのため約3秒間点灯します。

- 燃料噴射機構に異常が起きると点灯または点滅します。
- バッテリ性能が低下すると早い点滅（3回1セット）を繰り返し、点検を促します。

注 記

エンジン警告灯が点灯または点滅したら、すぐにスズキ販売店にご相談ください。

アドバイス

- **エンジン警告灯が点滅している場合は、始動ができません。**
- **エンジン警告灯が点灯していても走行できない場合もあります。**

<エンジン(FI)警告表示>

燃料噴射機構に異常が起きると、オドメータディスプレイ内に **FI** と表示します。同時にエンジン警告灯が点灯または点滅します。

注 記

エンジン(FI)警告表示が出たら、すぐにスズキ販売店にご相談ください。

アドバイス

- **ディスプレイ内に FI と表示されエンジン警告灯が点滅している場合は、始動ができません。**
- **エンジン(FI)警告表示が点滅していて走行できない場合もあります。**
- **次の表示が出た場合は、エンジンが始動できません。**

以下の点検を行ってください。

- **エンジンストップスイッチが になっていないか**
- **チェンジがニュートラル以外でサイドスタンドが出ていないか**
- **ヒューズが切れていないか**
- **ワイヤハーネスに異常がないか**

CHEC表示が消えないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

■ ABS警告灯 (ABS)

- メインスイッチを**ON**にすると点灯し、車速が約5km/h以上になると消灯します。
- ABSに異常があると点灯または点滅します。

⚠注 意

- **ABS警告灯が点灯している場合は、ABSは作動しません。**
- **走行中にABS警告灯が点灯または点滅した場合は、安全なところに停車して、メインスイッチをOFFにしてください。再度ONにし、5km/h以上で走行しても警告灯が消灯しない場合は、スズキ販売店で点検を受けてください。**

アドバイス

エンジンを始動後、走行を始める前に、エンジンの空ふかしをしたり、車両に振動を与えるとABS警告灯が消灯することがあります。この場合は、一旦、メインスイッチをOFFにした後に、再度エンジンを始動してABS警告灯が点灯することを確認してください。ABS警告灯が点灯しない場合は、スズキ販売店にご相談ください。

■ エンジン機温警告灯

メインスイッチを**ON**にするとエンジン機温警告灯が約3秒間点灯します。エンジン機温警告灯は、エンジンの温度が規定値を超えると点灯します。

注 記

- **エンジン機温警告灯が点灯したまま走行すると、エンジンが損傷するおそれがあります。**
- **エンジン機温警告灯が点灯したときは、エンジンをとめて冷ましてください。また、エンジン機温警告灯が消灯するまではエンジンをかけないでください。**

■ ターンシグナルインジケータ ⇦⇨

ターンシグナルランプが作動すると点滅します。

■ ハイビームインジケータ

ヘッドランプが上向きのときに点灯します。

■ ニュートラルインジケータ N

変速ギヤがニュートラル（チェンジが入っていない）のときに点灯します。

■ ギヤポジションインジケータ

ギヤポジションを表示します。ニュートラル（チェンジが入っていない）のときは“N”を表示します。

メータの見かた

■ オイルチェンジインジケータ

エンジンオイルの交換時期をお知らせします。
初回は 1,000km で表示、リセット後は6,000kmごとに表示します。
500 ↔ 6,000kmの範囲で任意に設定することができます。

リセットのしかた

1. メインスイッチを**OFF**にします。
2. セレクトスイッチを押したままメインスイッチを**ON**にし約4秒間待ちます。OIL CHANGE が、3回点滅して消え、リセットされます。このときのオドメータの数値が記憶され、6,000km（または設定値）走行後に再び表示します。

アドバイス

- **OIL CHANGE が点灯したらオイルを交換し、リセットしてください。これにより次回オイル交換時期を表示することができます。**
- **点灯前にオイル交換した場合にも次回のオイル交換時期を正しく表示させるためリセットしてください。**

オイル交換時期の設定

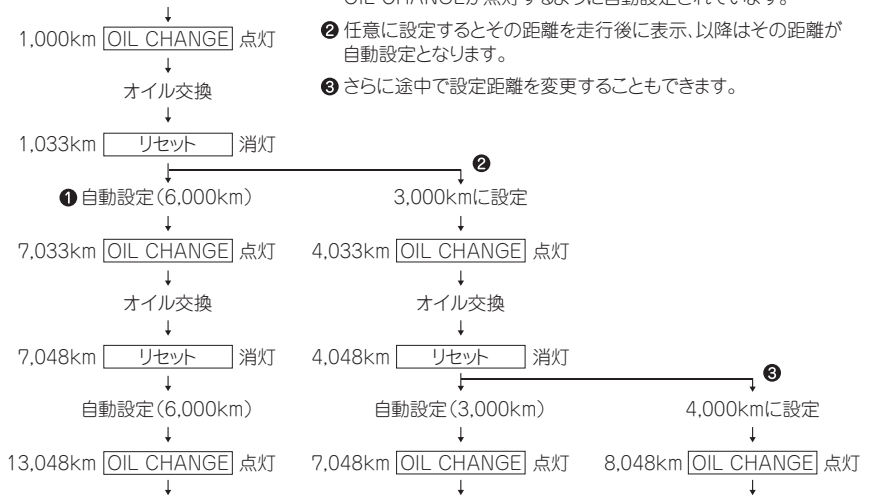
1. メインスイッチを**ON**にし、メータをオドメータ表示とします。アジャストスイッチを約 2 秒以上押して INTERVAL と OIL CHANGE を点滅させます。このときオドメータは、前回リセット時のオドメータの数字を3回点滅表示したあと、現在のインターバル設定値を点灯表示します。
2. セレクトスイッチを押すと 500km ずつダウンし、アジャストスイッチを押すと500kmずつアップします。
   500⇆1,000⇆ ･･･ 5,500⇆6,000
3. 再びセレクトスイッチとアジャストスイッチを約2秒以上押して設定完了です。オドメータが表示されます。

アドバイス

- **オイル交換後、インジケータをリセットしてください。**
- **メンテナンスはオイル交換時期の目安を示すものです。メンテナンスノートに従って正しい時期にオイル交換をしてください。**
- **オイル交換のインターバルは、交換時期の設定をしてからではなく、リセットしてからの距離を示します。**

アドバイス

オイル交換時期 設定例



❶ 特に設定しない場合は、初回1,000kmのあとは6,000km走行後にOIL CHANGEが点灯するように自動設定されています。

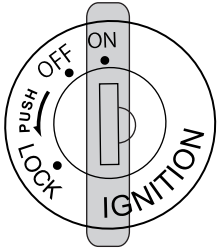
❷ 任意に設定するとその距離を走行後に表示、以降はその距離が自動設定となります。

❸ さらに途中で設定距離を変更することもできます。

スイッチの使いかた

■ メインスイッチ

電気回路のON-OFFをキーを回して行います。



ON

- エンジンの始動・走行ができます。
- 次のランプが点灯します。
  [ヘッド、テール、メータ、ポジション、ライセンスランプ]
- スイッチ、ランプ類が使えます。
  [ターンシグナル、ホーン、スタータ、パッシング、ディマ]
- キーが抜けません。

OFF

- エンジンが停止します。
- ランプ類が使えません。
- キーが抜けます。

LOCK

- ハンドルがロックします。
- ランプ類が使えません。
- キーが抜けます。

⚠警 告

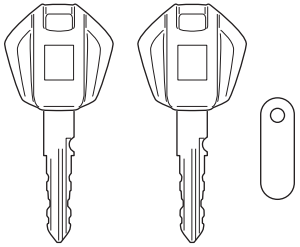
- **走行中はキーを操作しないでください。思わぬ事故につながることがあります。キーは停車後、操作してください。**
- **衝突やスリップにより転倒した場合は、車両に想定できない異常が発生する可能性があります。車両の異常により火災が発生したり、リヤホイールなどの回転する部品に巻き込まれる可能性があります。**
  転倒した場合は、すぐにメインスイッチをOFFにして、すべての装置を停止させます。転倒したときに、見えない部分に損傷を受けている可能性があるので、スズキ販売店で点検を受けてください。

アドバイス

- **メインスイッチONでヘッドランプなどが点灯するため、エンジンをかけずにONのままにしておくとバッテリあがりの原因となります。**
- **車から離れるときは、盗難抑止のためハンドルをロックし、必ずキーを抜いてお持ちください。**
- **キーはメインスイッチ、フューエルタンクキャップなどに共通して使います。**

＜キーの取扱い＞

この車にはキーが2個と英数字のキー番号を印したプレートがセットされています。



アドバイス

スペアキーは大切に保管してください。

スイッチの使いかた

それぞれのスイッチはメインスイッチが**ON**のとき作動します。

■ ターンシグナルスイッチ

右折または左折するときや進路変更などの合図に使います。

右折 ⇨

スイッチを⇨側にすると、右側ターンシグナルランプが点滅します。スイッチを前に押してランプを消します。

左折 ⇦

スイッチを⇦側にすると、左側ターンシグナルランプが点滅します。スイッチを前に押してランプを消します。

⚠警 告

ターンシグナルスイッチは自動的に解除されません。使用後は、必ずスイッチを前に押して解除してください。点滅したままにしておくと周囲の誤判断を招き、事故を起こすおそれがあります。

アドバイス

ターンシグナルランプの電球（バルブ）に、正規ワット数以外のものを使用するとターンシグナルが正しく作動しません。必ず正規ワット数のものを使用してください。

■ ディマスイッチ

ヘッドランプの向きを切り替えます。

ハイビーム

スイッチを側に押すと、ヘッドランプが上向きになります。

ロービーム

スイッチを側に押すと、ヘッドランプが下向きになります。

注 記

停車中に、点灯したヘッドランプやテールランプを物でさえぎったり、衣類などを被せないでください。ランプの熱により、レンズが溶けたり、置いた物が損傷することがあります。

注 記

ヘッドランプにはテープ類を貼らないでください。

アドバイス

対向車や先行車があるときはロービームで走行してください。

■ パッシングスイッチ

追い越しのときなどに、自車の存在を知らせます。スイッチを押すとハイビームが点灯します。ハイビーム点灯中は作動しません。

■ ホーンスイッチ

スイッチを押すとホーン（警音器）が鳴ります。

スイッチの使いかた

それぞれのスイッチはメインスイッチが**ON**のとき作動します。

■ スタータスイッチ

エンジンストップスイッチが↻になっていることを確認します。ギヤポジションをニュートラルにして、ニュートラルインジケータの点灯を確認します。クラッチレバーを握っているときにスタータスイッチを押すとスタータモータが回転し、エンジンが始動します。
この車は、スズキイージースタートシステムを装備しているため、スタータスイッチをワンプッシュするだけでエンジンを始動します。

サイドスタンドとギアの位置によりエンジンが始動しない場合があります。詳細はP.35＜サイドスタンドインタロック＞をご覧ください。

注 記

スタータスイッチを5秒以上押し続けたり、スズキイージースタートシステムを連続で使用するなどしてスタータモータを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリあがりの原因となります。

注 記

エンジンを始動する前に、ギヤポジションインジケータとニュートラルインジケータの状態を確認してください。以下の状態でない場合は、スズキ販売店で点検を受けてください。

- **ギヤポジションインジケータが N の表示をしているとき、ニュートラルインジケータが点灯していること。**
- **ギヤポジションインジケータが（1、2、3、4、5、6）いずれかの表示をしているとき、ニュートラルインジケータが消灯していること。**

アドバイス

- エンジンストップスイッチが のときは作動しません。
- スタータスイッチを押し、スイッチから手を放しても数秒間スタータモータが回り続けます。数秒が経過するか、エンジンが掛かるとスタータモータは止まります。
- バッテリの状態によっては、イージースタートによる始動が難しい場合があります。エンジンが始動し難い場合は、クラッチレバーを握りスタータスイッチを押し続けてエンジンを始動してください。それでも始動しない場合は、バッテリが弱っていますので、バッテリを充電するか交換してください。

■ エンジンストップスイッチ

転倒などの非常時に、ただちにエンジンを停止させます。
エンジンストップスイッチを 側に押すとエンジンが停止します。通常は にしておきます。

注 記

走行中にエンジンストップスイッチを →や→→にするとエンジンが円滑に回転しなくなり、エンジンに悪影響を与えます。

緊急時を除いて、走行中には使用しないでください。

アドバイス

エンジンストップスイッチでエンジンを停止したときは、必ずメインスイッチをOFFにしてください。ONのままにしておくとバッテリあがりの原因となります。

ハンドルロック

車から離れるときは、盗難抑止のためにハンドルロックをかけましょう。
チェーンロックなどの併用もおすすめします。

＜かけかた＞

1. ハンドルを左へいっぱいにきります。
2. キーを押しながら **OFF** から **LOCK** まで回します。
3. キーを抜きます。

アドバイス

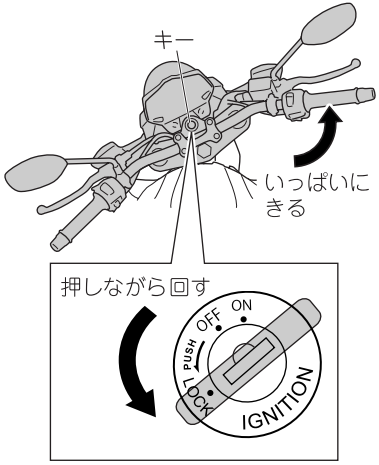
- **ハンドルを左右に動かして、確実にロックされているか確認してください。**
- **ロックがかかりにくいときは、ハンドルを少し右に動かしながらキーを回してください。**

＜外しかた＞

キーを差し込み、押しながら**OFF**まで回します。

アドバイス

走行前にハンドルを左右に動かして、切れ角が左右均等かを確認してください。

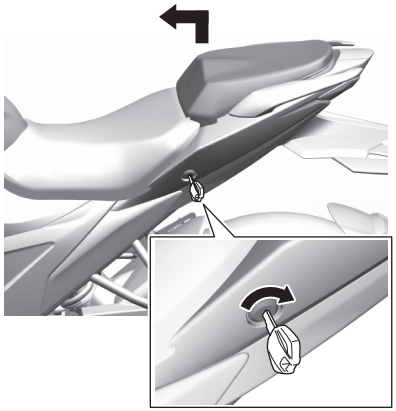


ハンドルロックのかけかた

シート

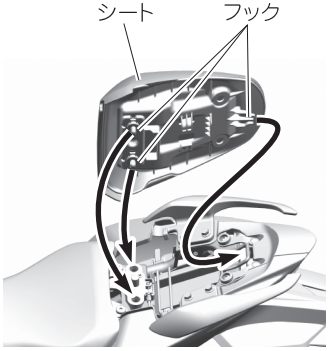
＜リヤシートの取り外し＞

1. シートロックにキーを差し込み、右に回してロックを解除します。
2. シートの前部を持ち上げ、前方に引いて外します。



＜リヤシートの取り付け＞

1. シート裏側のフックを車体側に差し込みます。
2. シートの前部を押し下げ、ロックします。

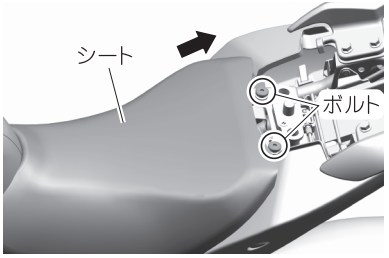


アドバイス

- シートを軽く持ち上げ、ロックがかかったことを確認してください。
- シート下にキーを置いたままロックすると、キーが取り出せなくなりますので注意してください。

＜フロントシートの取り外し＞

1. シート後部のボルト（左右）を取り外します。
2. シートの後部を持ち上げ、後方に引いて外します。



＜フロントシートの取り付け＞

1. シート裏側のフックを車体側に差し込みます。
2. シート後部のボルト（左右）を取り付けます。

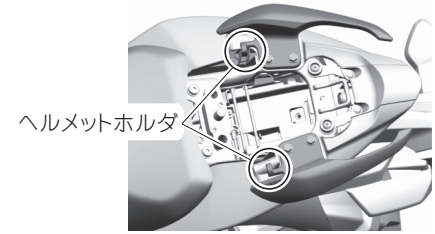
アドバイス

- シートを軽く持ち上げ、確実に取り付けられているか確認してください。
- シート下にキーを置いたままロックすると、キーが取り出せなくなりますので注意してください。

ヘルメットホルダ

ヘルメットの盗難抑止のため、ヘルメットホルダを使いましょう。

1. リヤシートを外します。
2. ヘルメットホルダにヘルメットの金具をかけます。
3. リヤシートを取り付けます。



⚠警 告

ヘルメットホルダにヘルメットをつけたまま走行しないでください。運転の妨げになります。またヘルメットに損傷を与え保護機能を低下させます。

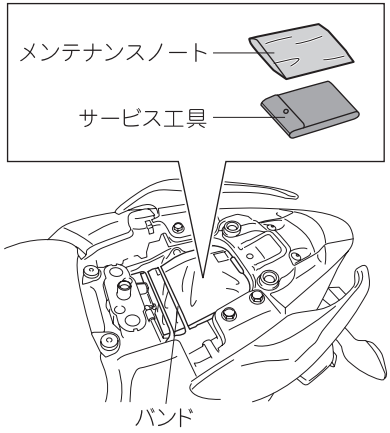
アドバイス

ヘルメットによっては、ヘルメットの形状やあごひもの長さにより、ヘルメットホルダに取り付けできないことがあります。

書類収納位置、サービス工具

リヤシートを外し、以下の図のように書類、サービス工具を収納してください。収納後は、バンドで固定してください。

- メンテナンスノートは、ビニール袋に入れてここに保管してください。
- サービス工具は、工具バックに入れてここに保管してください。

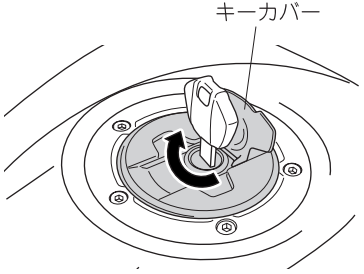


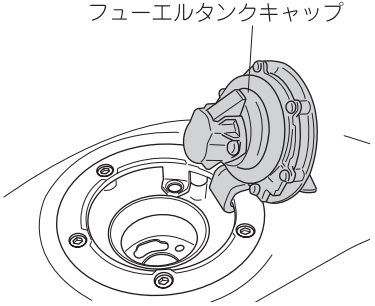
アドバイス

洗車時などに水が入る場合があります。大切なものを入れる場合はご注意ください。

ガソリンの給油

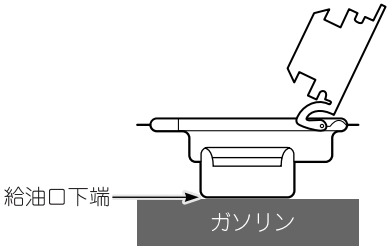
1. フューエルタンクキャップのキーカバーを開けます。
2. キーを差し込み、右に回してロックを解除します。
3. フューエルタンクキャップを開けます。





4. ガソリンを給油します。
   フューエルタンクキャップからガソリンがにじみ出ることがあるため、給油口の下端以上入れないでください。

   指定燃料：無鉛レギュラーガソリン
   タンク容量：12L



5. フューエルタンクキャップを押し下げ、キーを左に回して抜きます。
   フューエルタンクキャップがロックされないとキーは抜けません。

⚠警告

ガソリンは引火性が高く取扱いを誤ると火災を起こすおそれがあります。

- **ガソリンを給油するときは、エンジンをとめて火気を近づけないでください。**
- **給油は、必ず屋外で行ってください。**
- **フューエルタンクキャップを開ける前に車体や給油機などの金属部分に触れて身体の静電気を除去してください。静電気を帯びていると、放電の火花でガソリンに引火するおそれがあります。**
- **給油操作は、一人で行い他の人を近づけないでください。**
- **給油後、フューエルタンクキャップをカチッと音がするまで確実に閉めてください。**
- **こぼれたガソリンは、布などで完全にふき取ってください。**

ガソリンの給油

注 記

- **必ず無鉛ガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、その他アルコール系の燃料、軽油など、また不適切な添加剤は、エンジン、触媒装置、燃料系統を損傷する原因となります。**
- **給油時など、フューエルタンクに砂ぼこりや水などの異物が混入しないように注意してください。フューエルポンプの詰まりの原因となるおそれがあります。**
- **フューエルタンク内のガソリンを使い切る(ガス欠)と触媒装置などの損傷の原因になります。ガソリンの残量に注意してください。**

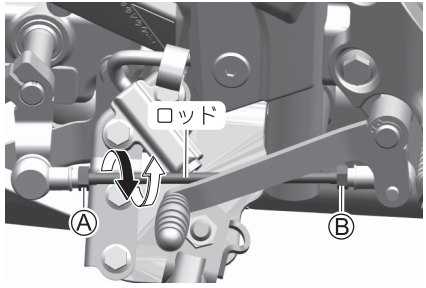
アドバイス

加速不良やエンジン出力が出ないなどのエンジンの不調が起きるときは、使用しているガソリンが原因の場合があります。そのときは、給油するガソリンスタンドを変えてみてください。ガソリンスタンドを変えても症状が改善しないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

チェンジペダル

チェンジペダルの位置が調整できます。

- ロックナットⒶ、Ⓑを手前（⬇）に回してゆるめ、ロッドを回します。
- ロッドを手前（⬇）に回すとペダル位置が低く、反対（⇧）に回すと高くなります。
- 調整後は、ロックナット Ⓐ、Ⓑ を反対（⇧）に回して締め付けてください。



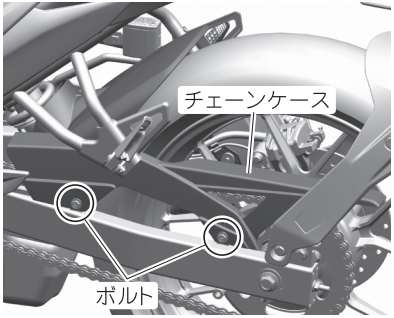
アドバイス

調整後ロックナットを確実に締め付けてください。

リヤショックアブソーバ

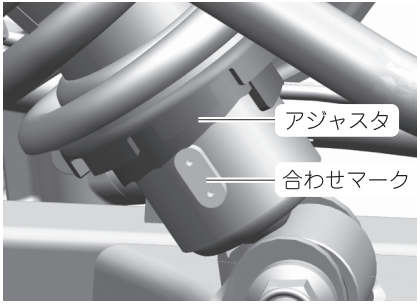
■ スプリングの強さ

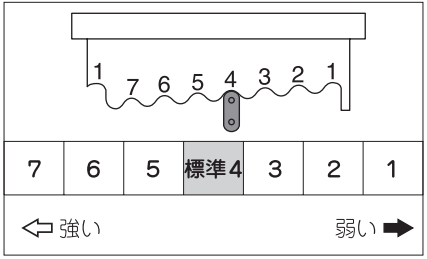
調整の際は、ボルトを外し、チェーンケースを取り外します。



下記の工具(別売り)、もしくは市販のクランプ(フック)レンチを使用してアジャスタを回し、合わせマークの位置を調整します。調整工具の購入は、スズキ販売店にご相談ください。

調整工具：
クランプレンチ(09910-60620)



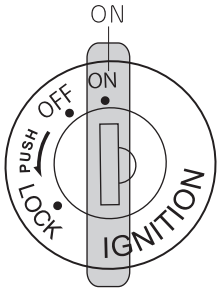


メ　モ

エンジンのかけかた

■ エンジンをかける前に

1. エンジンストップスイッチが○になっていることを確認します。
2. メインスイッチを**ON**にします。
3. ニュートラルインジケータの点灯を確認します。点灯しないときは、チェンジペダルを操作して**ニュートラル**にします。
4. エンジン警告灯の消灯を確認します。



▲警 告

排気ガスには一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。閉めきったガレージの中など、風通しの悪い場所では、エンジンをかけないでください。排気ガスにより、ガス中毒を起こすおそれがあります。

アドバイス

- **エンジン始動時の飛び出しを防ぐため、クラッチスイッチを設けています。クラッチレバーを握らないとエンジンがかかりません。**
- **メインスイッチをONにすると、約2秒間FIの作動音がしますが異常ではありません。**

注 記

エンジンを始動する前に、ギヤポジションインジケータとニュートラルインジケータの状態を確認してください。以下の状態でない場合は、スズキ販売店で点検を受けてください。

- **ギヤポジションインジケータが N の表示をしているとき、ニュートラルインジケータが点灯していること。**
- **ギヤポジションインジケータが (1、2、3、4、5、6)いずれかの表示をしているとき、ニュートラルインジケータが消灯していること。**

＜サイドスタンドインタロック＞

- サイドスタンドの外し忘れ防止装置です。
- サイドスタンドが出ているときは、チェンジ位置**ニュートラル**でのみエンジンがかかります。また**ニュートラル**以外のとき、サイドスタンドを出すとエンジンが停止します。

チェンジ ＼ サイドスタンド	出ている	外している
ニュートラル	◎	◎
ニュートラル以外	×	○

◎：始動可
○：始動･走行可
×：始動･走行不可

エンジンのかけかた

⚠警 告

走行中サイドスタンドを操作しないでください。エンジンが停止し、思わぬ事故の原因となります。

アドバイス

- **サイドスタンドを完全に外していないとき、チェンジを操作するとエンジンが停止します。**
- **サイドスタンドがスムーズに作動しないときは、注油してください。**

■ エンジンのかけかた

クラッチレバーを握り、スロットルグリップは回さずにスタータスイッチを押します。この車は、スズキイージースタートシステムを装備しているため、スタータスイッチをワンプッシュするだけでエンジンを始動します。

アドバイス

2〜3回スタータスイッチを押してもエンジンがかからないときは、スロットルグリップを1/8ほど回し、スタータスイッチを押します。エンジンがかかったら、スロットルグリップを戻してください。

注 記

スタータスイッチを5秒以上押し続けたり、スズキイージースタートシステムを連続で使用するなどしてスタータモータを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリあがりの原因となります。エンジンがかからなかったときは、バッテリ電圧を回復させるため、メインスイッチを一旦OFFにして、10秒くらい休んでください。

アドバイス

- **エンジンストップスイッチが のときは作動しません。**
- **スタータスイッチを押し、スイッチから手を放しても数秒間スタータモータが回り続けます。数秒が経過するか、エンジンがかかるとスタータモータは止まります。**
- **不必要な空ふかしはしないでください。ガソリンの無駄使いになるばかりでなく、エンジン、車体、触媒装置に悪影響を与えます。**
- **バッテリの状態によってはエンジンが始動し難い場合があります。エンジンが始動し難い場合は、クラッチレバーを握りスタータスイッチを押し続けてエンジンを始動してください。それでも始動しない場合は、バッテリが弱っていますので、バッテリを充電するか交換してください。**

アドバイス

転倒した場合は、エンジンをとめるシステムがエンジンをとめます。また、同時にエンジン警告灯が点灯します。エンジンを再始動するには、車両を起こしたあと、メインスイッチを一旦OFFにして、再びONにしてください。エンジン警告灯が消灯すると、エンジンの再始動が可能になります。エンジン警告灯が点灯したままスタータスイッチを押し続けないでください。バッテリあがりの原因となります。

〈暖機運転は適切に〉

次のような場合は、数十秒から数分程度の暖機運転を行ってから、走行を開始してください。

- 長期間お車を使用しなかったとき
- 寒冷地などで極低温（－ 10 ℃以下を目安）にあるとき

上記以外の場合はエコ運転のため、エンジンを始動したらすみやかに走行を開始してください。

注 記

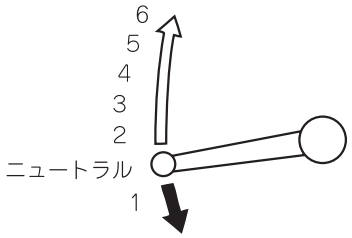
エンジン始動直後は暖まっていないので、空ふかしや急発進、急加速をすると、エンジン故障の原因となります。

アドバイス

長時間のアイドリングやスロットルグリップを開けたまま保持し続ける操作は、オーバーヒートの原因となり、エンジンや車体の損傷の原因になります。

走りかた

1. サイドスタンドを外します。
2. クラッチレバーを握り、チェンジペダルを操作してギヤを1速に入れ、静かに発進します。
3. 車のスピードに応じてギヤを切り替えます。ギヤチェンジはリターン式です。ギヤチェンジは、スロットルグリップを一旦戻して、クラッチレバーを完全に握ってから行ないます。チェンジ操作は、つま先で軽く行ない、ペダルにコツンと感じるまで確実に行なってください。



走りかた

ギヤ	適応速度（km/h）
1速	0 ～ 40
2速	15 ～ 60
3速	30 ～ 80
4速	40 ～
5速	45 ～
6速	50 ～

⚠警 告

走行中サイドスタンドを操作しないでください。エンジンが停止し、思わぬ事故の原因となります。

注 記

- **無理なチェンジ操作をしたり、チェンジペダルに足を乗せたまま走行すると、チェンジ機構の損傷の原因となります。**
- **エンジンが異常な高温になると、クラッチの切れが悪くなることがあります。安全な場所で、エンジンを停止して冷やしてください。**
- **エンジンの回転速度がレッドゾーンに入らないように注意してください。もしレッドゾーンに入ってしまった場合は、速やかにスロットルをゆるめ、エンジンの回転速度を下げてください。**

注 記

以下のような操作および走行をしないでください。エンジンの損傷の原因となります。

- **クラッチレバーを確実に握らないギヤチェンジ操作**
- **無理なチェンジ操作**
- **チェンジペダルに足を乗せたままの走行**

アドバイス

- **チェンジ操作はコツンと感じるまで確実に行ってください。**
- **むやみにエンジンの回転を上げないでください。エンジン寿命に悪影響を与えます。**
- **スピードは控えめにしましょう。**
- **走行中に異常を感じたら、すぐにスズキ販売店で点検を受けてください。**

「感情的な走りはいけません
心のブレーキを忘れずに！」

＜シフトダウン＞

追越しをするときなど、強力な加速が必要なときは、シフトダウンすると加速力が得られます。シフトダウンは各速5,000r/min以下で行ってください。

⚠警 告

あまり高い回転数でシフトダウンを行うと、エンジン回転が上がりすぎてエンジン、ミッションが故障したり、走行安定性を失い、尻振りなどの原因となります。

＜ならし運転＞

ならし運転を行うと、お車の寿命を延ばします。

- 最初の1,000kmを走行するまでは、エンジン回転5,000r/min以下で走行してください。
- 新しいタイヤはスリップしやすいので、車を深く倒さないでください。
  倒す角度は徐々に大きくしてタイヤをならしてください。
- 不必要な空ふかしや急加速、急減速、急ハンドル、急ブレーキは避けてください。

ブレーキの使いかた

ブレーキは前後同時に使い、エンジンブレーキを併用します。

＜エンジンブレーキ＞

スロットルグリップを戻すことによってエンジンブレーキがはたらきます。さらに強力なエンジンブレーキを必要とするときは、6速→5速…とシフトダウンします。

⚠警 告

- **急激なシフトダウンは走行安定性を失い、尻振りの原因となる事があります。速度に合わせたギヤを選んでください。**
- **フロントブレーキまたはリヤブレーキのみ使うと、車が横すべりして転倒するおそれがあります。**
- **濡れた路面や雪道、凍った路面は、乾いた路面より制動距離が長くなります。早めにブレーキをかけてください。**
- **長い下り坂などでは、エンジンブレーキを併用し、連続的なブレーキ操作は避けてください。ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。**
- **不必要な急ブレーキは避けましょう。急ブレーキは横すべりや転倒の原因となります。**

ブレーキの使いかた

注 記

上り坂などで、アクセル操作やクラッチレバー操作でバランスを取るなどして車を停止させようとしないでください。クラッチが過熱し、故障の原因となります。

アドバイス

- **濡れた路面ではスリップしやすいので急激なブレーキは避け、スピードを落として余裕をもったブレーキ操作をしましょう。**
- **洗車後や水たまり走行後は、ブレーキのききが悪くなる場合があります。ききが悪い場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、ききが回復するまでブレーキを軽く作動させてください。**

<ABS：アンチロックブレーキシステム>

ABSは直進時に急ブレーキをかけたとき、車輪がロックしないよう制御する装置です。ブレーキの操作方法は、通常の車と同様にブレーキレバーおよびブレーキペダルで行います。

アドバイス

- **ABS は制動距離を短くするものではありません。濡れた路面や雪道、でこぼこ路や下り坂などでは、ABSが付いていない車より制動距離が長くなる場合があります。またABSが付いていない車と同様に路面がすべりやすくなるほど制動距離が長くなります。**
- **コーナーリング中にブレーキをかけた場合に起こる横すべりは制御できません。ABSを過信せずに安全運転を心掛けてください。**
- **ブレーキをかけたときに反動が生じることがあります。これは異常ではありませんので、そのままブレーキを作動してください。**
- **車速約8km/h以下ではABSは作動しません。**
- **バッテリがあがっている場合も、ABSは作動しません。**
- **必ず指定タイヤをお使いください。ABSのコンピュータは、車輪の回転速度を検知しています。サイズの異なるタイヤは車輪の回転速度を変え、ABSが正常に機能しなくなることがあります。**

日常点検、定期点検

お車を快適に使用し、事故を未然に防ぐため、道路運送車両法で日常点検と定期点検を行うことが義務づけられています。必ず実施してください。

＜日常点検＞

日常の車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検です。
この車に適用される日常点検の項目は次のページをご覧ください。

＜定期点検＞

車を使用する人自身の責任において定期的に行う点検整備です。

⚠警告

日常点検や定期点検を怠ると、事故や故障の原因となることがあります。

アドバイス

- **お車を使用しないときも定期点検は実施してください。**
- **お車を長期間休ませた後に使い始めるときは入念に点検することが大切です。**

- 定期点検結果は、別冊「メンテナンスノート」に記録する必要があります。ご自身で点検できない項目については、スズキ販売店で点検を受けて記録してください。
- 点検時期や点検内容などについて、詳しくは別冊「メンテナンスノート」の“日常点検の方法”“定期点検の解説”をご覧ください。
- 初期（1か月）点検はお買いあげいただいたスズキ販売店が無料で実施します。ただし他店では有料となります。また油脂代、部品代およびその交換工賃は有料です。

⚠警告

点検は、安全に十分注意してください。

- **平坦な足場のしっかりした場所で、サイドスタンドを立ててください。**
- **エンジン回転中および停止後、しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。**
- **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。閉めきったガレージの中や風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。**
- **点検、整備を行うときは火気厳禁です。**
- **走行して点検する場合は、周囲の交通事情に十分注意してください。**
- **異常が認められたときは、ご自身またはスズキ販売店で確実に整備してからお乗りください。**

日常点検項目

ブレーキ
- ブレーキレバー、ブレーキペダルの遊び
- きき具合
- ブレーキ液の量

タイヤ
- 空気圧
- 亀裂、損傷、異物、異常摩耗
- 溝の深さ

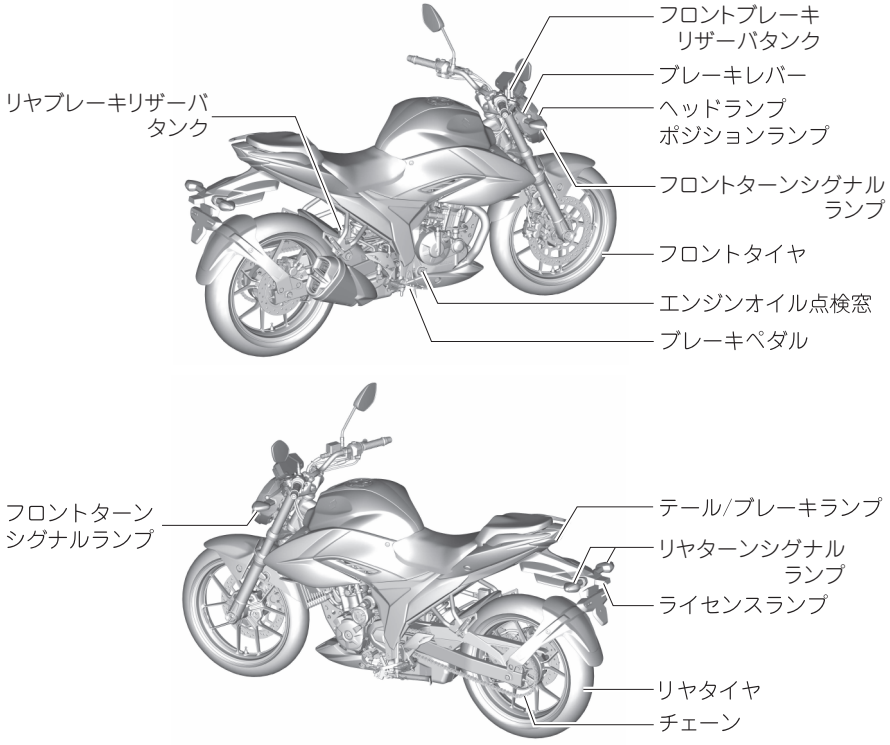
エンジン
- エンジンオイルの量
- かかり具合、異音
- 低速、加速の状態

チェーン
※ゆるみ

灯火装置、方向指示器（ランプ類）
運行において異常が認められた箇所

※印の点検は、メーカー指定点検を示します。

＜日常点検・部品配置＞



簡単な整備

ここでは、通常行われることが多い簡単な点検、整備の方法を説明しています。

⚠警 告

- **整備は、安全のためご自身の知識・技量の範囲で行ってください。難しいことはスズキ販売店にご相談ください。**
- **平坦な足場のしっかりした場所で、サイドスタンドを立ててください。**
- **エンジン回転中および停止後、しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。**
- **点検、整備を行うときは火気厳禁です。**

注 記

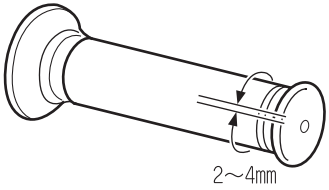
- **整備はエンジンを停止し、キーを抜いた状態で行ってください。**
- **適切な工具を使用しましょう。**
- **スイッチにグリスを塗ったり、注油をしないでください。故障の原因となります。**

アドバイス

油脂類の廃液は、法令で適切な処理を行うことが義務づけられています。廃液の処理はスズキ販売店にご相談ください。

スロットルケーブル

■ スロットルケーブルの点検



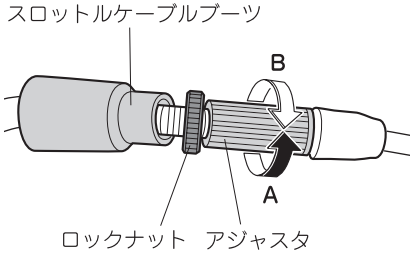
メインスイッチを**OFF**にした状態で、スロットルグリップを操作し、スムーズに操作できるか、ハンドルを左右いっぱいに切った状態でも操作が重くないか、傷や損傷が無いか点検します。また、スロットルグリップを操作し、スロットルケーブルの遊びの量が、2～4mmの範囲内にあるかを確認します。遊びの量が範囲から外れている場合は、調整してください。

スロットルケーブル

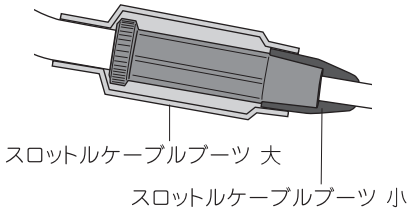
■ スロットルケーブルの遊びの調整

アジャスタにより遊びを調整します。

1. スロットルケーブルブーツをずらし、ロックナットをゆるめます。アジャスタをAのように回すと遊びが多く、Bのように回すと遊びが少なくなります。



2. 調整後は、スロットルケーブルブーツ小を奥までしっかりと差し込んだ状態で、スロットルケーブルブーツ大の先端をかぶせます。

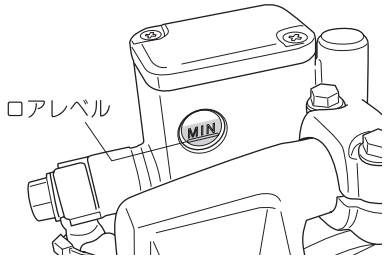


ブレーキ

■ ブレーキ液の量の点検

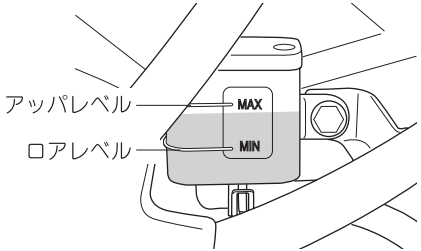
平坦地で車体を垂直にし、ハンドルを直進状態にして、リザーバタンクの液面がロアレベルより上にあるかを点検します。

<フロントブレーキ>



運転席から見たところ

<リヤブレーキ>



車両右側から見たところ

⚠警 告

ブレーキ液は、安全のため2年毎に交換してください。

指定ブレーキ液：

<フロント>
スズキブレーキフルードDOT3（JIS BF-3）もしくはスズキブレーキフルードDOT4（JIS BF-4）

<リヤ>
スズキブレーキフルードDOT4（JIS BF-4）

⚠警 告

- 液面がロアレベル以下の場合は、ブレーキパットの摩耗やブレーキ系統の液漏れ等が考えられますので、スズキ販売店で点検を受けてください。
- ブレーキ液を取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んでください。

注 記

- 化学変化を防止するため、銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。
- リザーバタンク内にゴミや水などが混入しないよう十分注意してください。
- ブレーキ液の入れ過ぎに注意してください。あふれ出るおそれがあります。

アドバイス

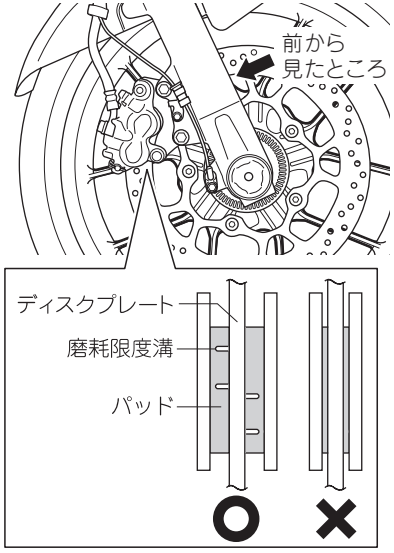
- ブレーキ液は塗装面やプラスチックおよびゴム類を損傷させます。付着したら、すぐにふき取ってください。
- ブレーキ液面はブレーキパッドの摩耗と共に下がっていきます。

ブレーキ

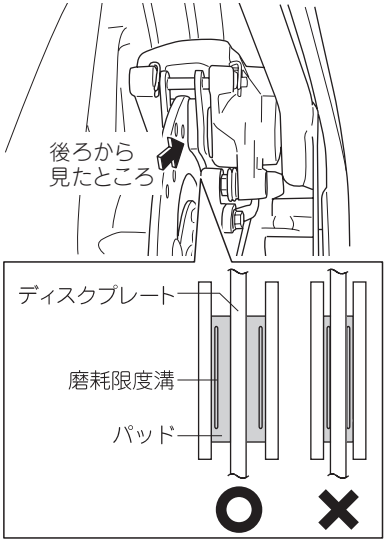
■ ブレーキパッドの摩耗の点検

ブレーキキャリパをのぞいて、パッドの摩耗を点検します。
摩耗限度溝がディスクプレートまで達したら（パッドの厚さが約1mmになったら）、パッドを交換してください。

<フロントブレーキ>



<リヤブレーキ>



⚠警 告

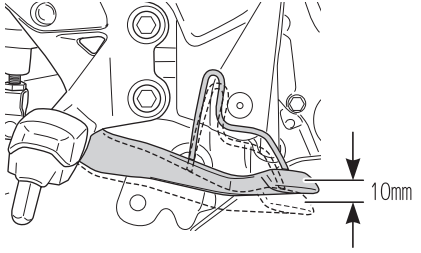
ブレーキパッド交換後、ブレーキレバーまたはブレーキペダルを、正規のタッチになるまで、数回ストロークしてください。

アドバイス

- **ブレーキパッドは左右同時に交換してください。**
- **新しいブレーキパッドは、きき具合が違います。慎重な運転を心がけてください。**
- **ブレーキパッドの交換は、スズキ販売店にご相談ください。**

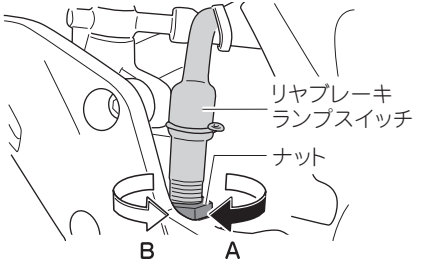
■ リヤブレーキランプスイッチの点検

リヤブレーキペダルを10mm程度踏み込んだときに、ブレーキランプが点灯を始めるか点検します。
点灯の開始が早い場合や遅い場合は、リヤブレーキランプスイッチを調整してください。



■ リヤブレーキランプスイッチの調整

リヤブレーキランプスイッチ本体が回らないように指で固定し、ナットを回して調整します。
ナットをAのように回すとブレーキランプの点灯開始が早くなり、Bのように回すと遅くなります。



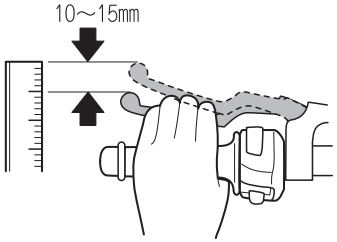
注 記

調整をするときにリヤブレーキランプスイッチ本体を回さないでください。配線が断線する原因になることがあります。

クラッチ

■ クラッチレバーの遊びの点検

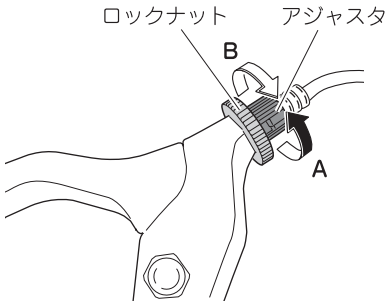
軽い抵抗を感じるまでクラッチレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで点検します。規定の範囲から外れている場合は調整してください。



■ クラッチレバーの遊びの調整

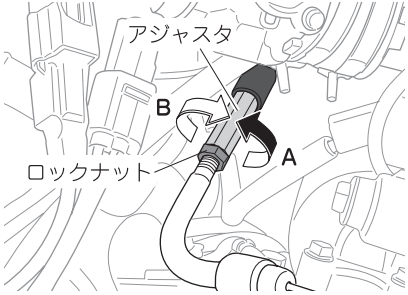
＜クラッチレバー部（微調整）＞

ゴムカバーをめくります。ロックナットをゆるめ、アジャスタを回し遊びを調整します。
アジャスタをAのように回すと遊びが多く、Bのように回すと遊びが少なくなります。



＜エンジン部（主調整）＞

アジャスタにより遊びを調整します。
ロックナットをゆるめアジャスタをAのように回すと遊びが多く、Bのように回すと遊びが少なくなります。



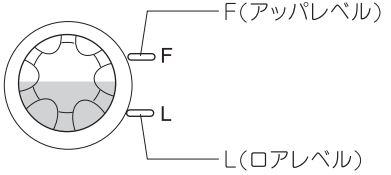
アドバイス

- **調整後、遊びが規定の範囲内にあるか確認してください。**
- **調整後、エンジンをかけチェンジ操作がスムーズであるか、エンストまたは飛び出しなどがないか確認してください。**

エンジンオイル

■ エンジンオイル量の点検

1. 平坦地でエンジンを3分間アイドリング運転し、エンジンを停止します。
2. 3分後、車体を垂直にしてオイルが点検窓のF(アッパレベル)とL(ロアレベル)の間にあるかを点検します。
   オイル量がF(アッパレベル)以上またはL(ロアレベル)以下の場合は、F(アッパレベル)とL(ロアレベル)の間になるよう調整してください。
   - オイル量がL(ロアレベル)以下の場合は、オイルを補給してください。
   - オイル量がF(アッパレベル)以上の場合は、オイルを抜くなどして調整してください。オイルを抜く方法については、スズキ販売店にご相談ください。

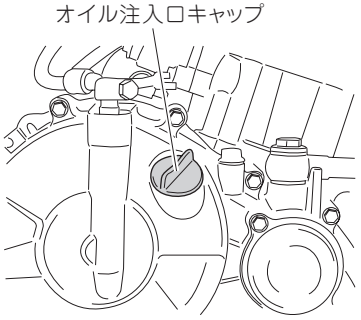


⚠注 意

エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。

■ エンジンオイルの補給

1. 平坦地でエンジンを3分間アイドリング運転し、エンジンを停止します。
2. 3分後、オイル注入口キャップを外します。
3. 車体を垂直にして、F(アッパレベル)とL(ロアレベル)の間に油面がくるように補給します。
4. キャップを確実に取り付けます。



エンジンオイル

推奨オイル：スズキ純正オイル

規格 / オイル	SAE	JASO
エクスター R9000 MA2	10W-40	MA2
エクスター R7000 MA2	10W-40	MA2
エクスター R5000 MA2	10W-40	MA2

推奨オイルが入手できない場合は、次の規格を満足するエンジンオイルを使用してください。

SAE	API	JASO
10W-40	SG, SH, SJ, SL, SM, SN	MA (MA1, MA2)

エンジンオイル交換時期：
初回1か月または1,000km
以降6,000kmまたは1年ごと

オイルフィルタ交換時期：
初回1か月または1,000km
以降18,000kmごと

⚠警 告

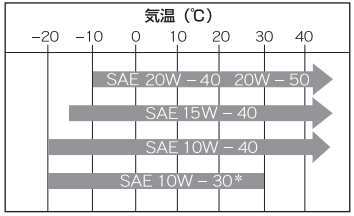
エンジンオイルを取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んでください。

注 記

- **摩擦低減剤を必要以上に多く含むエンジンオイルは使用しないでください。また摩擦を低減する添加物は加えないでください。クラッチは、エンジンオイルに浸されています。摩擦低減剤を含むエンジンオイルはクラッチのすべりなどの原因となる場合があります。**
- **銘柄やグレードの違うオイルを混用したり、低品質オイルを使用しないでください。変質して故障の原因となることがあります。**
- **作業前にオイルジョッキの内部等にホコリや泥、異物等が付着していないことを確認し、オイル注入口からゴミなどが入らないようにしてください。**

アドバイス

- **SAE10W-40 のオイルが入手できない場合は、次の表を参考に使用環境に合うオイルを選んでください。**



＊ APIがSG、SH、SJ、SLのもの

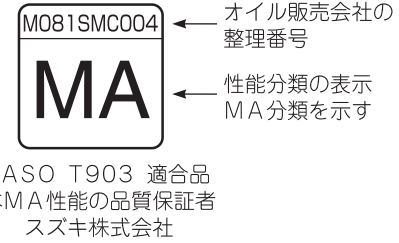
- **オイルをこぼしたときは、完全にふきとってください。**
- **オイルは規定量より多くても少なくても、エンジンに悪影響を与えます。**

アドバイス

JASO規格について

- **JASO T903は、4サイクル二輪車のエンジンオイルを選ぶ際の指針となる規格です。**
- **二輪車は四輪車と異なりエンジンオイルがクラッチやトランスミッションも潤滑しています。JASO T903はこれらクラッチやトランスミッションが要求するオイル性能について規定しています。**
- **MA（MA1、MA2）、MBの分類があり、本規格に適合するエンジンオイルの容器には、次の表示があります。**

例：MAのとき



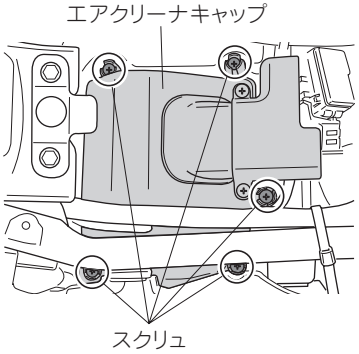
エアクリーナ

■ エアクリーナエレメントの点検

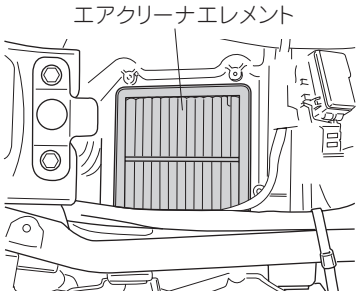
1年毎に点検してください。ほこりが多い場所を走行する機会が多い場合は、6か月毎に点検してください。

エアクリーナ点検時は、フロントシート、リヤシートを取り外します。
☞P.28の「シート」参照
左側フレームカバーを外します。
☞P.56の「フレームカバー」参照

1. スクリュ（5か所）を外し、エアクリーナキャップを取り外します。



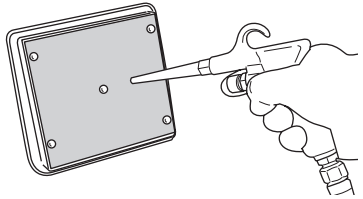
2. エアクリーナエレメントを取り外します。
3. 目視により点検します。汚れ、詰まりがある場合は清掃します。



エアクリーナ

■ エアクリーナエレメントの清掃

1. エアクリーナエレメントを軽くたたくか、エアを内側より外側に向けて吹きつけ、ゴミやほこりを落とします。
2. エアクリーナエレメントを取り付けます。



注 記

- **エアクリーナエレメントが破損しているときは交換してください。**
- **エアクリーナエレメントおよびエアクリーナキャップの取り付けが不完全な場合、ゴミやほこりを吸入しエンジンに悪影響を与えます。**
- **洗車時、エアクリーナエレメントに水がかからないようにしてください。また、エアクリーナボックス内に水が入らないようにしてください。**

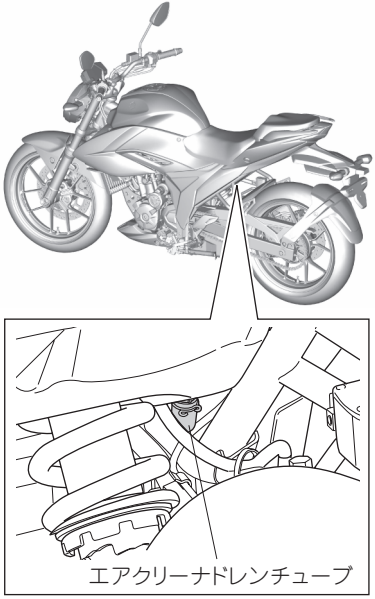
■ エアクリーナドレンチューブの清掃

1年毎に、エアクリーナドレンチューブに、水やオイルがたまっていないか点検してください。汚れや水がたまっている場合は、エアクリーナドレンチューブを清掃します。

1. エアクリーナドレンチューブを外し、エアクリーナドレンチューブにたまっている汚れや水を取り除きます。
2. エアクリーナドレンチューブを確実に取り付けます。

⚠注 意

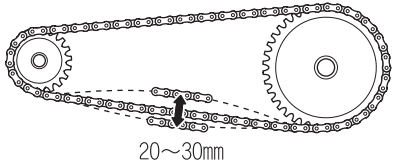
エンジン停止後しばらくの間は、エンジンが熱くなっています。このときエンジンに触れるとやけどを負うおそれがあります。



ドライブチェーン

■ ゆるみの点検

前後スプロケットの中央を手で上下に動かし、チェーンのゆるみが規定の範囲内にあるかを点検します。
規定の範囲を越えている場合は、調整してください。



また、車をゆっくり動かし、チェーンがなめらかに回転するかを点検します。
回転がなめらかでない場合は、清掃し、注油してください。

⚠警 告

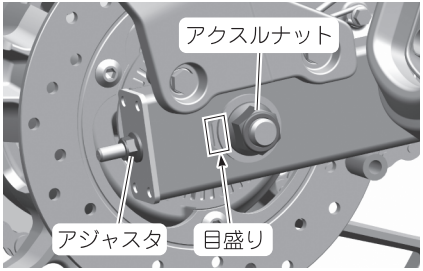
ドライブチェーンの点検、調整、清掃、注油は、必ずエンジンをとめてから行なってください。

アドバイス

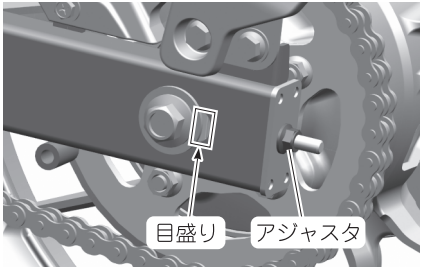
ドライブチェーンの調整などは、スズキ販売店にご相談ください。

■ ゆるみの調整

1. アクスルナットをゆるめます。
2. アジャスタを左右少しずつ回します。
3. トルクレンチを使用して、アクスルナットを規定トルクで締め付けます。
   規定トルク：65N·m



<右側>



<左側>

アドバイス

- **アクスルナットの締め付けは、トルクレンチを使用してください。トルクレンチが無い場合は、スズキ販売店へご相談ください。**
- **左右同じ目盛りに合わせてください。**

ドライブチェーン

■ 清掃、注油

1. ドライブチェーンにホコリや泥などが付着しているときは汚れを取り除きます。シールリングを傷付けないように注意してください。
2. 洗浄はシールチェーン専用クリーナまたは、水や中性洗剤などで行います。
   推奨クリーナ：
   スズキアルミホイール&チェーンクリーナ

注 記

不適切な清掃をすると、ドライブチェーンのシールリングに傷がついたりドライブチェーンが壊れたりすることがあります。

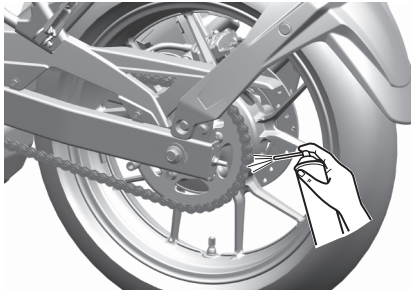
- **シンナー、灯油、ガソリン等の揮発性溶剤を使用しないでください。**
- **スチーム洗車機を使用しないでください。**
- **ワイヤーブラシを使用しないでください。**

3. 柔らかいブラシを使用します。ブラシは柔らかくてもシールを痛める場合があるため、シールリングを傷付けないよう注意してください。
4. 水や洗浄剤を綺麗にふき取ります。
5. 注油は２輪シールチェーン専用オイルもしくは粘度の高いオイル（#80～90）を使用します。
   推奨オイル：スズキチェーンオイルR

注 記

ドライブチェーンオイルの中にシールリングに損傷を与える溶剤や添加物が含まれている場合があります。

シールリング付きドライブチェーン専用オイルを使用してください。

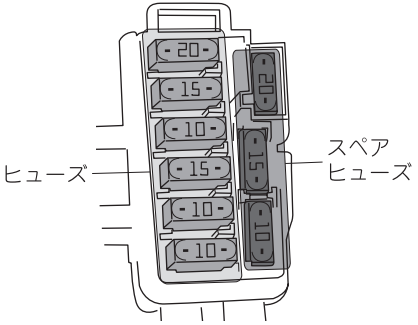


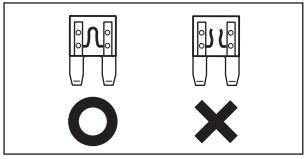
6. オイルがチェーン各部によく行きわたるように、チェーンの手前と奥の両側に注油します。
7. 全周に注油した後、外側の余分なチェーンオイルを乾いたウェスでふき取ります。

ヒューズ

■ ヒューズの点検

1. メインスイッチを**OFF**にします。
2. フロントシート、リヤシートを取り外します。
   ☞P.28の「シート」参照
3. ヒューズボックスを開け、ヒューズを引き出して点検します。
4. 切れている場合は原因を調べ、直してから指定アンペアのスペアヒューズと交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。





⚠警 告

指定容量を超えるヒューズは、配線の過熱、焼損の原因となるので使用しないでください。針金、銀紙などを使用すると、配線が焼損したり火災が発生したりする原因となります。

注 記

- **電装品類（ランプ、計器など）を取り付けるときは、スズキ純正用品をご使用ください。それ以外のものを使用するとヒューズが切れたり、バッテリあがりを起こすことがあります。**
- **洗車時、ヒューズのまわりに水を強くふきつけることは避けてください。**

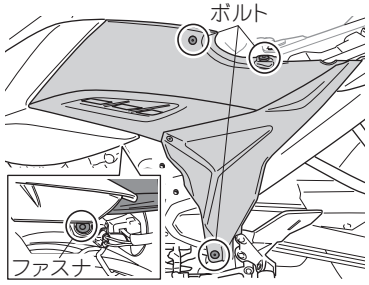
アドバイス

ヒューズが切れたときは原因を調べ、直してから指定アンペアのスペアヒューズと交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

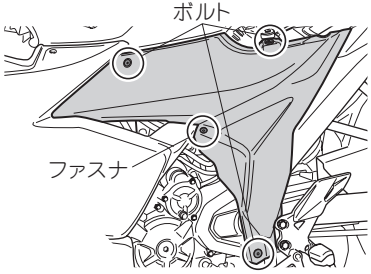
フレームカバー

■ 左側フレームカバーの取り外し、取り付け

1. 平坦地でサイドスタンドを立てます。
2. フロントシート、リヤシートを取り外します。
☞P.28の「シート」参照
3. ボルト(3か所)、ファスナ(1か所)を外します。

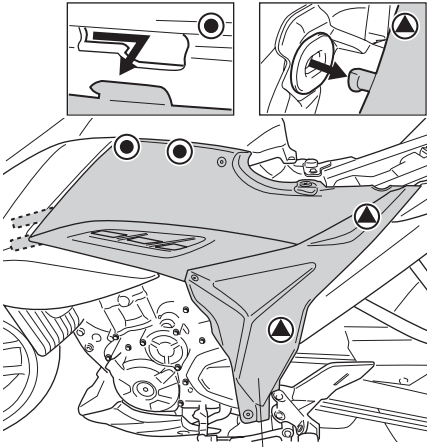


(GIXXER 250)

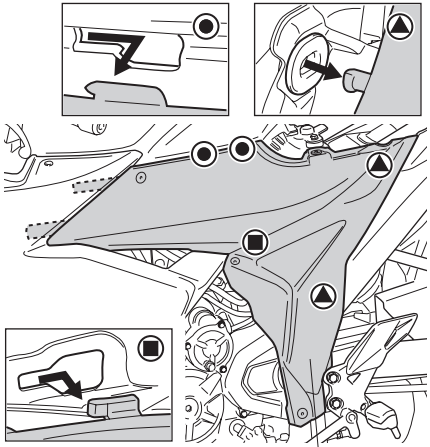


(GIXXER SF 250)

4. 下図のフック位置（●▲■印）を参考にフックを外し、左側フレームカバーを取り外します。



(GIXXER 250)



(GIXXER SF 250)

アドバイス

取り付けの際は、取り外しの逆の手順で取り付けます。

バッテリ

■ バッテリの点検

この車は密閉式のメンテナンスフリーバッテリを使用しています。バッテリ液の点検、補給は必要ありません。
ターミナル部に汚れや腐食がある場合は、取り外して清掃してください。

⚠警 告

- **バッテリを取り扱う前に、バッテリに貼付されている注意文をよく読んでください。**
- **バッテリには、希硫酸が含まれています。希硫酸が身体に付着すると重いやけどを負うおそれがあります。**
- **バッテリは引火性ガスを発生します。火気を近づけないでください。**
- **バッテリは、子供の手の届くところに置かないでください。**
- **乾いた布でバッテリをふかないでください。静電気が発生して引火するおそれがあります。**

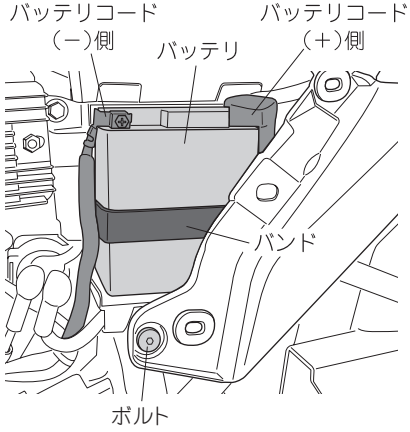
＜バッテリ液が付着した場合は・・・＞

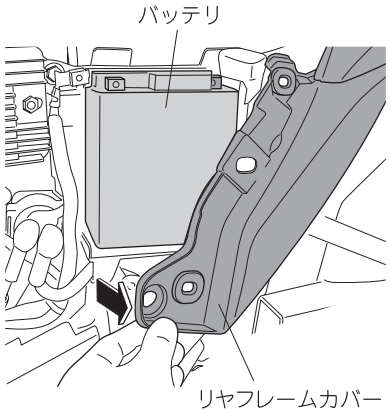
- 目に入った場合は、すぐに多量の水で15分以上洗い、医師の診察を受けてください。
- 皮膚や衣服に付いた場合は、衣服を脱ぎ多量の水で洗い流してください。
- 万一飲み込んだ場合は、すぐに多量の水を飲んで医師の診察を受けてください。

バッテリ

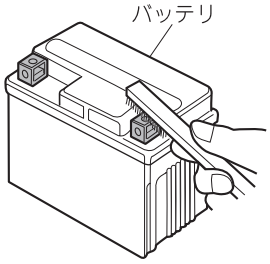
■ バッテリターミナル部の清掃

1. メインスイッチを**OFF**にします。
2. フロントシート、リヤシートを取り外します。
   ☞P.28の「シート」参照
3. 左側フレームカバーを外します。
   ☞P.56の「フレームカバー」参照
4. (−)側バッテリコード、(+)側バッテリコードの順に外します。
5. バッテリバンドを取り外します。
6. ボルトを外し、リヤフレームカバーを矢印の方向に軽く引き、バッテリを取り外します。





7. ターミナル部に白い粉が付いているときは、ぬるま湯を注いでふきます。腐食が著しいときは、ワイヤブラシかサンドペーパで磨いてください。
8. 清掃後、ターミナル部にグリスを薄く塗り、バッテリを取り付けます。



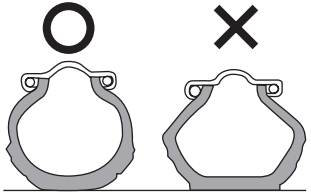
アドバイス

- バッテリコードを外すときは、必ずメインスイッチをOFFにし、(ー)側を先に外してください。取り付けるときは(+)側を先に取り付けます。
- ターミナル部にゆるみが生じないように締め付け、(+)側ターミナルカバーを確実に取り付けてください。
- 密閉栓は取り外さないでください。
- バッテリを交換するときは、同一型式のメンテナンスフリーバッテリと交換してください。
- 長期間使用しない場合は、3か月ごとに補充電してください。詳細はP.65のアドバイスをご覧ください。

タイヤ

■ 空気圧の点検

タイヤが冷えているときにタイヤゲージを使用して、規定の空気圧であるかを点検します。規定値を外れている場合は、適正な空気圧に調整してください。



タイヤ空気圧

1人乗車時	前	200kPa
	後	225kPa
2人乗車時	前	200kPa
	後	250kPa

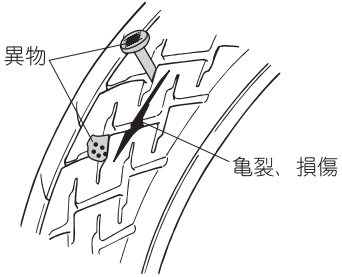
⚠警 告

不適正な空気圧での使用や、すり減ったタイヤの使用は、転倒事故などの原因となります。適正な空気圧を守り、すり減ったなら交換してください。

タイヤ

■ 亀裂、損傷、異物の点検

タイヤの接地面および側面の全周に、亀裂や損傷がないかを確認します。
また、釘や石などの異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを確認します。

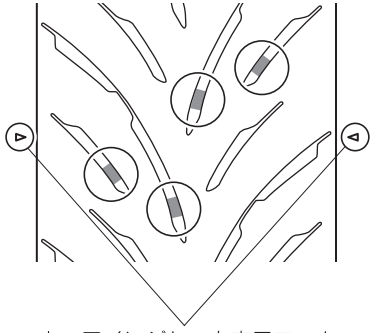


■ 異常磨耗の点検

タイヤの接地面が、異常に磨耗していないかを確認します。異常に磨耗している場合は、スズキ販売店にご相談ください。

■ 溝の深さの点検

ウエアインジケータがあらわれていないかを点検します。
ウエアインジケータがあらわれたときは、タイヤを交換してください。



アドバイス

コーナリングや操縦安定性などの安全走行のために、早めのタイヤ交換をおすすめします。溝の深さは、前1.6mm、後2.0mm以上が望ましいです。

■ タイヤの交換

タイヤを交換する場合は、必ず指定タイヤを使用してください。

指定タイヤ

前	サイズ	110/70R17M/C 54H
	種類	DUNLOP GPR-300F Z
後	サイズ	150/60R17M/C 66H
	種類	DUNLOP GPR-300 Z

⚠警 告

指定外のタイヤの使用は、安全走行に悪影響を与える場合があります。必ず指定タイヤを取り付けてください。

アドバイス

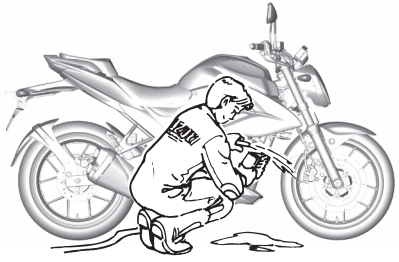
新しいタイヤはスリップしやすいので、車を深く倒さないでください。倒す角度は徐々に大きくしてタイヤをならしてください。

お車の手入れ

洗車

お車を長持ちさせるため、常に清掃をしましょう。泥道やホコリの多いところを走行した後は、すみずみまで洗車しましょう。異常などが早く発見でき、故障予防にもなります。海水に含まれる塩分や融雪剤は金属をサビやすくします。海岸付近や融雪剤を使用した道路を走行した後は、必ず洗車してください。

1. 冷水をかけながら、スポンジまたは柔らかい布で汚れを落とします。
2. ひどい汚れは、中性洗剤を使用して水で洗い流します。
3. 乾いた柔らかい布で、水分をふき取ります。車体を乾燥させた後、ブレーキレバーやスタンドの取り付け部へグリースなどを注油し、サビ予防のためにワックスがけを行ってください。



注 記

- 洗車はエンジンが冷えているときに行ってください。
- 高圧洗車機やスチーム洗車機は使用しないでください。可動部や電装部品の作動不良や故障の原因となる事があります。
- 洗車時、マフラ、エアクリーナや電装品に水が入らないよう注意してください。水が入ると始動不良やサビ発生の原因となります。
- オイルクーラーに高圧の水をかけないでください。冷却フィンが損傷するおそれがあります。
- 洗車後はブレーキのきき具合が悪くなる場合があります。この場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、ききが回復するまでブレーキを軽く作動させてください。

アドバイス

下記の場所には水を噴射したり、流したりしないでください。

- メインスイッチ
- スパークプラグ
- フューエルタンクキャップ
- フューエルインジェクションシステム
- ブレーキマスターシリンダ
- スロットルケーブルのブーツ
- ステアリングヘッドチューブ（上部、下部）

アドバイス

- 洗車後や雨天走行後にヘッドランプのレンズが曇ることがあります。この場合は、ヘッドランプを点灯することで曇りは徐々に消えます。バッテリあがりを防ぐために、エンジンをかけながらヘッドランプを点灯させてください。
- 海岸や凍結防止剤をまいた道路などを走行した後は、直ちに冷水で水洗いをして乾いた布で水分をふき取ってください。温水で洗うと塩の腐食が進行するので、必ず冷水で洗ってください。

プラスチック製部品

ヘッドランプレンズ、スピードメータディスプレイ、フェアリングなどのプラスチック製部品は傷つきやすいので、清掃するときは中性洗剤または石けん水で洗った後、水洗いし、柔らかい布でふいてください。

⚠警 告

フェアリングとハンドルの間に物を置かないでください。ハンドル操作に悪影響を与えます。

注 記

ヘッドランプレンズ、スピードメータディスプレイなどのプラスチック製部品に、以下のものが付着すると傷や部品の損傷の原因になります。

- **コンパウンド入りワックス**
- **油膜とり剤やはっ水剤などのケミカル用品**
- **酸性・アルカリ性の洗剤**
- **ブレーキ液、ガソリン、有機溶剤など**

つや消し塗装

つや消し塗装の車両は、次の注意事項をお守りください。

- コンパウンド入りワックスなどで、塗装面や樹脂部品を強く磨くと色むらが生じる場合があります。
- 固形ワックスは、ふき取りが困難になることがあります。
- 使用中の摩擦や表面を擦り過ぎたり強く磨くと、つや消し表面が変化することがあります。

アルミホイール

アルミホイールは、塩分などの汚れを嫌います。アルミホイールの美しさを保つため、定期的に（週に一度くらい）清掃しましょう。

1. 中性洗剤をスポンジに含ませて、汚れを落とします。
2. 十分に水洗いをして、乾いた布で水分をふき取ります。

アドバイス

- **アルミホイールは、傷がつきやすいため、みがき粉、硬いブラシや金属タワシなどの硬いものでこすったり、当てたりしないでください。**
- **海岸や凍結防止剤をまいた道路などを走行した後は、直ちに冷水で水洗いをして乾いた布で水分をふき取ってください。温水で洗うと塩の腐食が進行するので、必ず冷水で洗ってください。**

エキゾーストパイプ

ステンレス鋼のエキゾーストパイプは、油脂などの汚れにより焼けむらが生じることがあります。

- 汚れは、ステンレス用の台所洗剤を使って、布かスポンジで洗浄ののち、十分に水洗いし乾いた布で水分をふき取ります。
- 焼けむらが生じた場合は、細目のコンパウンドで磨いてから、汚れを落とします。

⚠注 意

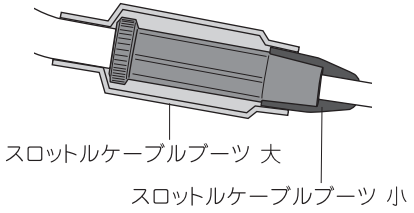
エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。

アドバイス

排気熱によってエキゾーストパイプは変色しますが、機能上問題はありません。

スロットルケーブルブーツ

スロットルケーブルには、ブーツが取り付けられています。ブーツが確実に取り付けられていることを確認してください。洗車時には、ブーツに直接、水をかけないようにしてください。ブーツが汚れている場合は、水で濡らした布でふき取ってください。

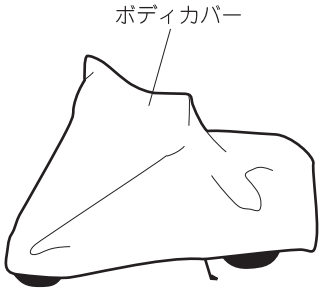


アドバイス

ブーツが上記のように取り付けられていない場合は、P.44を参考に取り付け直してください。

保管のしかた

できるだけご自宅の敷地内に保管し、屋外の場合は、ボディカバーをかけるようにしてください。



アドバイス

ボディカバーは、エンジンやマフラが冷えてからかけてください。

アドバイス

長期間乗らない場合は、次の事項をお守りください。

- **保管前に各部のワックスがけを行ってください。サビを防ぐ効果があります。**
- **バッテリは、自己放電と電気漏れを少なくするため、車から外し、完全補充電して風通しのよい暗い場所に保存してください。車に積んだまま保存する場合は(－)ターミナルを外してください。**

※補充電については、スズキ販売店にご相談ください。

環境を保護するために

将来、車両を廃棄する場合や使用済みバッテリ、エンジンオイルなどを廃棄する場合は、地球環境を守るため、むやみに捨てないでください。お車を廃棄する場合はお近くの「廃棄二輪取扱店」にご相談ください。

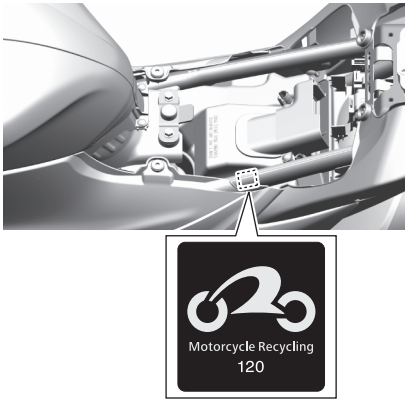
◆ 廃棄二輪取扱店とは

廃棄二輪取扱店とは（社）全国軽自動車協会連合会の加盟販売店で廃棄二輪取扱店として登録されている、廃棄二輪車を適正処理するための窓口です。
廃棄二輪取扱店には「廃棄二輪取扱店の証」が表示されています。

廃棄二輪取扱店の証

◆ 二輪車リサイクルマークとリサイクル料金

この車には二輪車リサイクルマークが貼り付けられています。二輪車リサイクルマークが貼り付けられている二輪車は、適正な処理を行い再資源化するための、リサイクル費用がメーカー希望小売価格および車両本体価格に含まれています。お車を廃棄する場合には、リサイクル料金はいただきません。ただしお車の運搬、収集費用はお客様のご負担となります。運搬、収集費用につきましては、お近くの「廃棄二輪取扱店」にご相談ください。



環境を保護するために

◆ 二輪車リサイクルマークの取扱い

お車を廃棄する場合には、二輪車リサイクルマークが必要となります。マークは車体からはがさないでください。紛失、破損による再発行および部品販売の取扱いはありません。

リサイクルマーク対象車両かどうか不明の場合は、下記のホームページおよびコールセンターでご確認ください。

◆ 廃棄二輪車に関するお問合せについて

廃棄二輪車に関するお問合せは、お近くの廃棄二輪取扱店または下記までお問合せください。

（財）自動車リサイクル促進センター
ホームページ：http://www.jarc.or.jp/

メ モ

サービスデータ

主要諸元

項目		諸元	
長さ		2,010mm	
幅		805mm (GIXXER 250)	740mm (GIXXER SF 250)
高さ		1,035mm	
軸距		1,345mm	
車両重量		154kg (GIXXER 250)	158kg (GIXXER SF 250)
乗車定員		2人	
タイヤサイズ	前	110/70R17M/C 54H	
	後	150/60R17M/C 66H	
最小回転半径		2.6m	
エンジン形式		4サイクル・単気筒	
冷却方式		油冷	
燃料供給方式		フューエルインジェクション	
総排気量		249cm^3	
内径×行程		76.0×54.9mm	
アイドリング回転速度		1,500r/min	
最高出力		19kW/9,000r/min	
最大トルク		22N·m/7,300r/min	

項目		諸元
クラッチ形式		湿式·多板·コイルスプリング式
トランスミッション		常時噛合式6段リターン
減速比	1次	3.086
	2次	3.076
変速比	1速	2.500
	2速	1.687
	3速	1.315
	4速	1.111
	5速	0.954
	6速	0.826
ブレーキ形式	前	油圧式シングルディスク
	後	油圧式シングルディスク
フューエルタンク容量		12L
点火方式		フル・トランジスタ式 バッテリ点火

サービスデータ

項　　目	調　　整　　値
ドライブチェーンのゆるみ	20～30mm

タイヤ空気圧	1人乗車時	前	200kPa
		後	225kPa
	2人乗車時	前	200kPa
		後	250kPa

エンジンオイル量	オイル交換時	1.18L
	オイルフィルタ交換時	1.2L
	全　容　量	1.8L

スパークプラグ	種類	NGK	MR8E-9
	ギャップ		0.8～0.9mm

項　　目		調　　整　　値
バッテリ	種　　類	YTX7L-BS メンテナンスフリー
	容　　量	12V—6Ah

ランプ	ヘッドランプ H/L		LED
	ストップ／テール		LED
	ポジションランプ		LED
	ターンシグナル	前	12V 10W
		後	12V 10W
	ライセンスランプ		LED

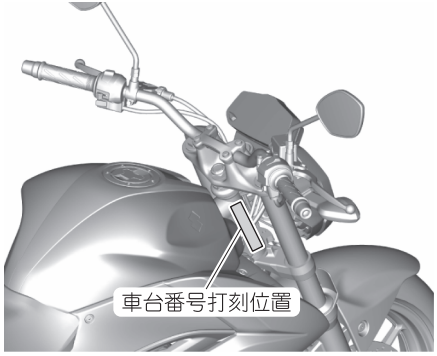
ヒューズ	10A, 15A, 20A

車台番号

アフターサービスなどを的確に行うため、お車の車台番号を記入しておいてください。

機　　種	GIXXER 250 GIXXER SF 250
車台番号	

車台番号はフレームヘッドパイプ右側に打刻してあります。



(GIXXER 250)

(GIXXER SF 250)

メ モ

メ　モ